2026年9月

マイナビ

マイナビ　2026年度キャリア・就職支援への取り組み調査

◆内容　大学等のキャリア・就職支援の実態に関する調査
◆実施期間　2026年6月16日～2026年7月15日
◆調査対象　全国の大学就職支援担当部署・窓口
◆調査方法　調査票を大学にメールにて配布。WEB上のアンケートフォームより回収

◆回答属性データ

カテゴリー	国公立	私立	全体
学校別回答数	116	330	446
キャンパス別の回答数	48	152	200
総計	**164**	**482**	**646**

※キャンパス別とは・・・同じ大学でも就職窓口が個別に存在し、独自の支援を行っているケースがあるため、各1回答として集計した。

学校所在地	国公立	私立	全体
北海道	14	24	38
東北	17	27	44
関東	31	175	206
甲信越	13	18	31
北陸	8	50	58
東海	11	14	25
関西	21	92	113
中国	20	28	48
四国	8	10	18
九州・沖縄	21	44	65
総計	**164**	**482**	**646**

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

◆設問

(1)キャリア・就職ガイダンスについて	・延べ参加人数の増減【前期・夏休み明け～年末・年明け・全期間】	P.03
	・延べ参加人数の増減推移(経年) ・開催回数の増減、増減推移(経年)	
	・キャリア・就職ガイダンスを開始する時期(学部1年生、学部2年生、学部3年生・修士1年生)	
	・キャリア・就職ガイダンスの動員対策で実施しているもの ・動員対策で効果が高かった施策	
(2)採用広報を目的としない企業を招いての インターンシップ等・業界研究セミナーについて	・採用広報を目的としないインターンシップ等・業界研究セミナーの実施	P.06
	・延べ参加人数の増減	
	・開催時期【学部3年生・修士1年生】	
(3)採用広報を目的とした 学内企業説明会について	・採用広報を目的とした学内企業説明会の実施について	P.07
	・延べ参加人数の増減 ・延べ参加企業数の増減	
	・開催時期	
(4)キャリア教育・支援や インターンシップ等について	・【低学年(学部1・2年生)対象】キャリアに関する授業(正課)の実施の有無	P.08
	・【低学年(学部1・2年生)対象】キャリアに関する授業(正課)開始時期	
	・キャリア教育(正課)の履修者の割合【学部1年生対象】【学部2年生対象】	
	・【低学年(学部1・2年生)対象】キャリア教育についての関わり(正課)、取組内容(正課)(正課外)	
	・【低学年(学部1・2年生)対象】キャリア教育(正課・正課外問わず)の中で今後注力したい内容	
	・単位認定型インターンシップの実施(2027年卒実績、2028年卒予定)	
	・アセスメントツール実施の有無、実施学年、受検結果の活用方法	
(5)大学で行っている就職支援について	・学生支援において形成することが難しいと感じる点	P.11
	・卒業年次の夏以降に就職活動を継続している学生への支援で課題・難しさを感じる点	
	・学生が生成系AI(ChatGPTなど)を利用して就職活動している実感があるかどうか	
	・学生が就職活動において生成系AI(ChatGPTなど)を活用することに対しての考え	
	・AI面接の対策として今後実施したいもの(現在実施しているものを含む)	
	・キャリアセンターの負荷(2026年卒との比較) ・現状負荷がかかっており、負荷を解消すべき業務	
	・学生へのキャリア・就職支援におけるAIの活用方法	
	・キャリア・就職支援に関わる部署内の人数 ・学生相談を専任しているキャリアコンサルタントの人数	
	・キャリアセンターのミッションでこれから最も力を入れたいテーマ ・注力している施策、最も注力している施策	
	・キャリア支援・就職支援に関して、特に知りたいとおもう情報	
	・就職情報サイト等の外部データの利用目的 ・学内の情報だけでは把握できない課題	
(6)学生向けの各種サービスについて	・増えていると思う就職活動の応募スタイル	P.16
	・新卒紹介 案内開始希望月	
	・外国人留学生(実施プログラム、課題) ・日本人留学生(実施プログラム、課題)	
	・障がいがある学生(特別な就職支援の実施、実施プログラム、課題)	
(7)特別支援(高校・保護者)	・大学全体で高校と連携して行っていること	P.19
	・入学前教育で取り組まれている内容(予定含む)	
	・卒業生の生活やキャリアの充実度を測る上で取り組んでいること	
	・保護者に対して取り組まれている内容 ・保護者向けガイダンスで実施している内容	

補足資料

(8)自由記述	・学校主催で行うキャリア・就職ガイダンス増減の理由	P.21
	・キャリアセンターの負荷増減の理由	
	・低学年学生へのキャリア支援に関する課題	
	・就職活動生への就職支援に関する課題	
	・これからの就職支援についてのご意見	

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

(1) キャリア・就職ガイダンスについて

※キャリア・就職ガイダンスは総合ガイダンスから少人数の講座までを含みます。

● 2027年卒学生向けキャリア・就職ガイダンスの延べ参加人数を期間別にみると【前期（2025年3月～8月）】では「前年度並み」が66.2%と最多で前年比3.5pt増、「増えた」は17.1%（前年比1.3pt減）、「減った」は16.6%（前年比2.3pt減）となり、増減の幅は小さく横ばい傾向となった。続いて、【夏休み明け～年末（2025年9月～12月）】は「増えた」の回答は11.6%（前年比0.4pt減）、「減った」の回答は26.3%（前年比0.9pt減）。【年明け（2026年1月～）】は「増えた」の回答が12.6%（前年比1.0pt増）、「減った」の回答は25.2%（前年比2.0pt減）となった。【全期間】でみると「増えた」が15.5%（前年比0.7pt減）、「前年度並み」が60.7%（前年比2.4pt増）、「減った」が23.8%（前年比1.7pt減）となり、「前年度並み」が6割を超え、参加人数は安定して推移している。

2027年卒学生のキャリア・就職ガイダンス　延べ参加人数の増減

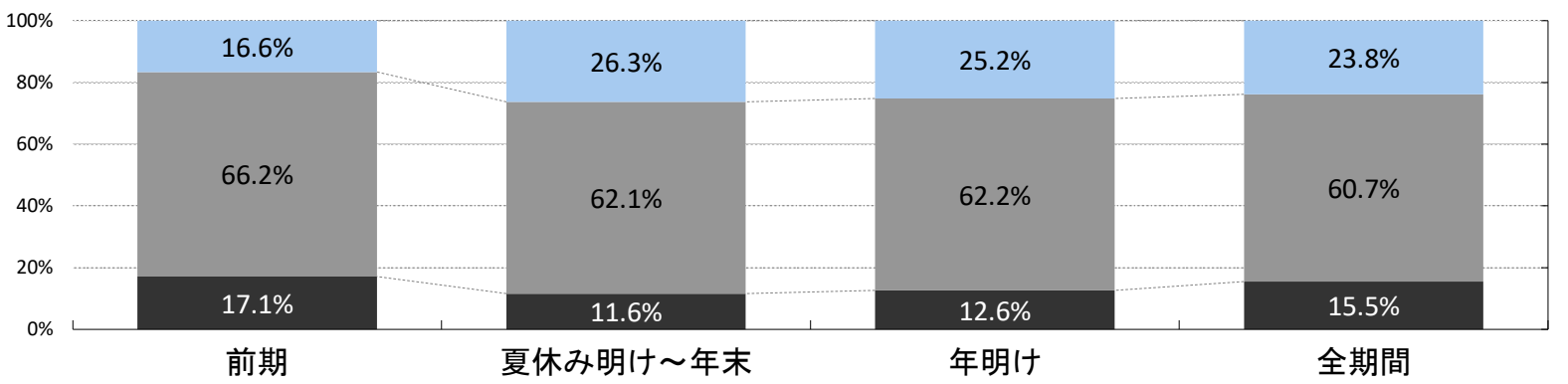
【前期（2025年3月～8月）】	全体 (n=607)	国公立 (n=151)	私立 (n=456)	北海道・東北(n=75)	関東 (n=196)	甲信越・北陸(n=54)	東海(n=52)	関西 (n=103)	中国・四国 (n=65)	九州・沖縄 (n=62)	参考:前年調査
増えた	17.1%	19.9%	16.2%	6.7%	24.0%	14.8%	19.2%	19.4%	9.2%	12.9%	18.4%
前年度並み	66.2%	60.9%	68.0%	74.7%	56.6%	68.5%	65.4%	63.1%	80.0%	75.8%	62.7%
減った	16.6%	19.2%	15.8%	18.7%	19.4%	16.7%	15.4%	17.5%	10.8%	11.3%	18.9%

【夏休み明け～年末（2025年9月～12月）】	全体 (n=605)	国公立 (n=150)	私立 (n=455)	北海道・東北(n=75)	関東 (n=199)	甲信越・北陸(n=53)	東海(n=53)	関西 (n=100)	中国・四国 (n=63)	九州・沖縄 (n=62)	参考:前年調査
増えた	11.6%	10.0%	12.1%	4.0%	15.6%	5.7%	11.3%	13.0%	9.5%	12.9%	12.0%
前年度並み	62.1%	62.0%	62.2%	69.3%	54.3%	64.2%	64.2%	56.0%	76.2%	71.0%	60.8%
減った	26.3%	28.0%	25.7%	26.7%	30.2%	30.2%	24.5%	31.0%	14.3%	16.1%	27.2%

【年明け（2026年1月～）】	全体 (n=595)	国公立 (n=148)	私立 (n=447)	北海道・東北(n=74)	関東 (n=195)	甲信越・北陸(n=54)	東海(n=51)	関西(n=98)	中国・四国 (n=62)	九州・沖縄 (n=61)	参考:前年調査
増えた	12.6%	10.1%	13.4%	6.8%	18.5%	5.6%	11.8%	15.3%	9.7%	6.6%	11.6%
前年度並み	62.2%	62.2%	62.2%	75.7%	51.3%	63.0%	64.7%	55.1%	77.4%	73.8%	61.2%
減った	25.2%	27.7%	24.4%	17.6%	30.3%	31.5%	23.5%	29.6%	12.9%	19.7%	27.2%

【全期間（上記の全期間）】	全体 (n=605)	国公立 (n=150)	私立 (n=455)	北海道・東北(n=75)	関東 (n=196)	甲信越・北陸(n=54)	東海(n=53)	関西 (n=102)	中国・四国 (n=63)	九州・沖縄 (n=62)	参考:前年調査
増えた	15.5%	15.3%	15.6%	6.7%	21.4%	7.4%	18.9%	15.7%	12.7%	14.5%	16.2%
前年度並み	60.7%	58.0%	61.5%	65.3%	53.1%	66.7%	60.4%	57.8%	73.0%	66.1%	58.3%
減った	23.8%	26.7%	22.9%	28.0%	25.5%	25.9%	20.8%	26.5%	14.3%	19.4%	25.5%

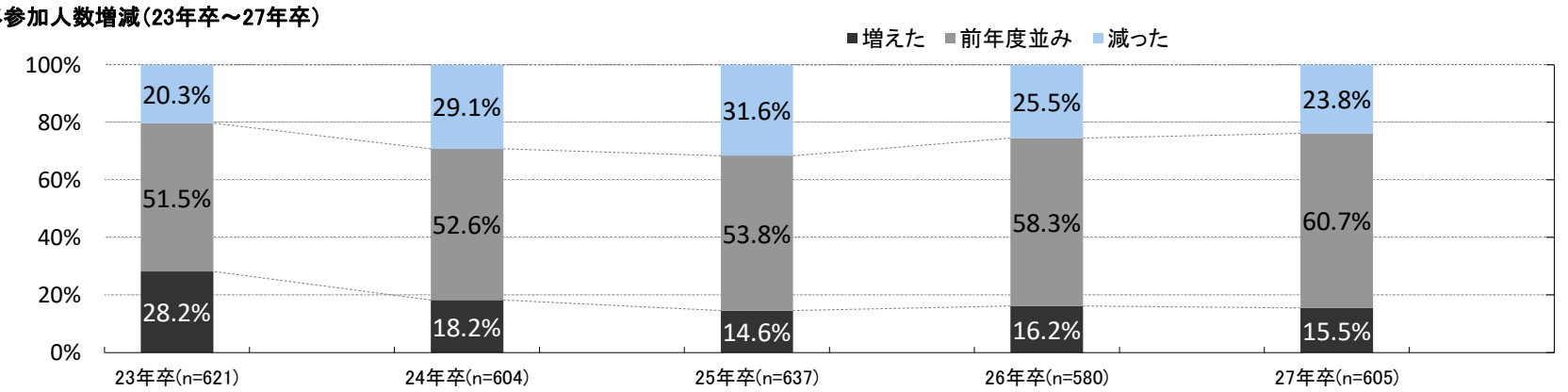
学生の延べ参加人数の増減【開催時期別】(全体)



延べ参加人数の増減(23年卒～27年卒)

	23年卒(n=621)	24年卒(n=604)	25年卒(n=637)	26年卒(n=580)	27年卒(n=605)
増えた	28.2%	18.2%	14.6%	16.2%	15.5%
前年度並み	51.5%	52.6%	53.8%	58.3%	60.7%
減った	20.3%	29.1%	31.6%	25.5%	23.8%

延べ参加人数増減(23年卒～27年卒)



Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

● キャリア・就職ガイダンスの開催回数についてみてみると、「増えた」が12.4%（前年比1.3pt増）となり、最多は「前年度並み」の78.2%（前年比3.0pt増）と高止まりの状態と言える。キャリア・就職ガイダンスの実施有無と開始する時期を学年別で聞いたところ、実施していないとの回答は【学部1年生】が38.8%、【学部2年生】が17.8%、【学部3年生・修士1年生】が1.5%という結果となった。開始時期に関しては全学年とも4月が最多となり、【学部3年生・修士1年生】は4月開始が77.6%（前年比2.4pt増）と昨年に続き最多となった。【学部1年生】の4月開始も30.9%（前年比1.3pt減）となり、低学年からのガイダンス実施が定着している様子がうかがえる。

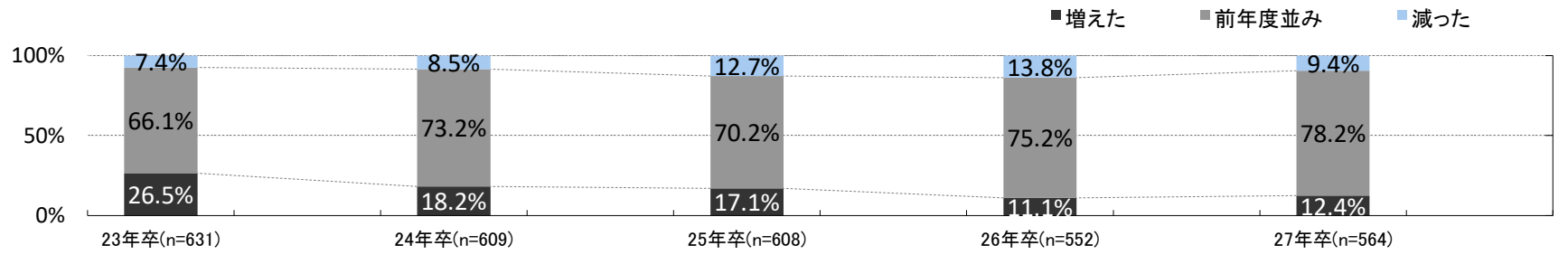
2027年卒学生向けキャリア・就職ガイダンス開催回数の増減　　※オンデマンド型配信は除く

	全体 (n=564)	国公立 (n=140)	私立 (n=424)	北海道・東北(n=73)	関東 (n=178)	甲信越・北陸(n=51)	東海(n=50)	関西(n=95)	中国・四国 (n=59)	九州・沖縄 (n=58)	参考:前年調査
増えた	12.4%	17.1%	10.8%	12.3%	15.2%	13.7%	14.0%	9.5%	6.8%	12.1%	11.1%
前年度並み	78.2%	75.0%	79.2%	75.3%	77.0%	68.6%	82.0%	80.0%	84.7%	81.0%	75.2%
減った	9.4%	7.9%	9.9%	12.3%	7.9%	17.6%	4.0%	10.5%	8.5%	6.9%	13.8%

キャリア・就職ガイダンス開催回数の増減推移(2023年卒～27年卒)

	23年卒(n=631)	24年卒(n=609)	25年卒(n=608)	26年卒(n=552)	27年卒(n=564)
増えた	26.5%	18.2%	17.1%	11.1%	12.4%
前年度並み	66.1%	73.2%	70.2%	75.2%	78.2%
減った	7.4%	8.5%	12.7%	13.8%	9.4%

キャリア・就職ガイダンス開催回数増減（2023年卒～27年卒）



キャリア・就職ガイダンスを開始する時期（予定を含む）

【学部1年生】	全体 (n=564)	国公立 (n=139)	私立 (n=425)	北海道・東北(n=72)	関東 (n=186)	甲信越・北陸(n=48)	東海(n=50)	関西(n=93)	中国・四国 (n=54)	九州・沖縄 (n=61)	参考:前年調査
2026年4月	30.9%	26.6%	32.2%	27.8%	40.3%	29.2%	32.0%	17.2%	24.1%	32.8%	32.2%
2026年5月	6.6%	9.4%	5.6%	4.2%	5.9%	4.2%	4.0%	8.6%	5.6%	13.1%	8.1%
2026年6月	3.5%	2.9%	3.8%	2.8%	2.7%	4.2%	4.0%	3.2%	9.3%	1.6%	3.4%
2026年7月	5.1%	5.8%	4.9%	2.8%	3.8%	10.4%	－	10.8%	7.4%	1.6%	5.5%
2026年8月	0.9%	1.4%	0.7%	－	－	6.3%	－	－	1.9%	1.6%	0.4%
2026年9月	2.8%	0.7%	3.5%	2.8%	1.6%	4.2%	2.0%	4.3%	3.7%	3.3%	2.8%
2026年10月	4.8%	6.5%	4.2%	6.9%	1.1%	6.3%	4.0%	5.4%	9.3%	8.2%	3.6%
2026年11月	1.1%	1.4%	0.9%	2.8%	1.6%	－	－	－	－	1.6%	0.9%
2026年12月	2.0%	0.7%	2.4%	－	2.7%	4.2%	4.0%	－	3.7%	－	1.3%
2027年1月	2.1%	4.3%	1.4%	2.8%	2.2%	－	2.0%	－	3.7%	4.9%	1.7%
2027年2月	0.9%	1.4%	0.7%	2.8%	1.6%	－	－	－	－	－	1.1%
2027年3月	0.5%	－	0.7%	1.4%	－	－	－	1.1%	－	1.6%	0.9%
この対象には実施していない	38.8%	38.8%	38.8%	43.1%	36.6%	31.3%	48.0%	49.5%	31.5%	29.5%	37.9%

【学部2年生】	全体 (n=578)	国公立 (n=141)	私立 (n=437)	北海道・東北(n=72)	関東 (n=189)	甲信越・北陸(n=51)	東海(n=52)	関西(n=99)	中国・四国 (n=54)	九州・沖縄 (n=61)	参考:前年調査
2026年4月	32.9%	30.5%	33.6%	31.9%	34.9%	35.3%	40.4%	22.2%	31.5%	37.7%	31.1%
2026年5月	7.8%	6.4%	8.2%	6.9%	7.4%	3.9%	5.8%	9.1%	9.3%	11.5%	10.1%
2026年6月	5.4%	2.8%	6.2%	4.2%	4.8%	7.8%	9.6%	6.1%	5.6%	1.6%	5.9%
2026年7月	4.8%	5.7%	4.6%	6.9%	5.3%	3.9%	1.9%	7.1%	5.6%	－	4.9%
2026年8月	1.2%	2.1%	0.9%	－	1.1%	3.9%	1.9%	1.0%	1.9%	－	0.7%
2026年9月	4.7%	1.4%	5.7%	4.2%	5.8%	2.0%	5.8%	4.0%	3.7%	4.9%	4.6%
2026年10月	5.5%	7.8%	4.8%	8.3%	2.1%	5.9%	1.9%	9.1%	5.6%	9.8%	5.3%
2026年11月	2.9%	3.5%	2.7%	2.8%	1.1%	5.9%	5.8%	6.1%	－	1.6%	2.2%
2026年12月	5.2%	2.8%	5.9%	1.4%	6.9%	7.8%	5.8%	6.1%	3.7%	1.6%	3.8%
2027年1月	5.5%	10.6%	3.9%	4.2%	6.9%	3.9%	3.8%	3.0%	9.3%	6.6%	4.0%
2027年2月	3.5%	7.1%	2.3%	5.6%	5.3%	3.9%	－	2.0%	1.9%	1.6%	4.4%
2027年3月	2.8%	2.8%	2.7%	6.9%	2.6%	2.0%	1.9%	1.0%	1.9%	3.3%	3.5%
この対象には実施していない	17.8%	16.3%	18.3%	16.7%	15.9%	13.7%	15.4%	23.2%	20.4%	19.7%	19.4%

【学部3年生・修士1年生】	全体 (n=602)	国公立 (n=151)	私立 (n=451)	北海道・東北(n=75)	関東 (n=194)	甲信越・北陸(n=55)	東海(n=54)	関西 (n=102)	中国・四国 (n=59)	九州・沖縄 (n=63)	参考:前年調査
2026年4月	77.6%	78.1%	77.4%	68.0%	77.3%	80.0%	85.2%	78.4%	83.1%	74.6%	75.2%
2026年5月	8.6%	7.3%	9.1%	13.3%	7.7%	7.3%	3.7%	12.7%	5.1%	7.9%	11.0%
2026年6月	3.7%	6.0%	2.9%	5.3%	3.1%	3.6%	5.6%	－	6.8%	4.8%	3.5%
2026年7月	2.0%	0.7%	2.4%	1.3%	1.5%	3.6%	1.9%	2.9%	1.7%	1.6%	1.6%
2026年8月	0.3%	0.7%	0.2%	1.3%	0.5%	－	－	－	－	－	0.2%
2026年9月	1.8%	1.3%	2.0%	2.7%	2.6%	－	－	2.0%	－	3.2%	1.2%
2026年10月	1.3%	1.3%	1.3%	2.7%	1.5%	1.8%	－	1.0%	－	1.6%	1.4%
2026年11月	0.7%	0.7%	0.7%	2.7%	0.5%	－	－	1.0%	－	－	0.5%
2026年12月	0.7%	0.7%	0.7%	－	－	3.6%	1.9%	－	1.7%	－	0.3%
2027年1月	0.8%	2.0%	0.4%	－	1.0%	－	－	1.0%	1.7%	1.6%	1.0%
2027年2月	0.3%	－	0.4%	－	1.0%	－	－	－	－	－	1.2%
2027年3月	0.7%	－	0.9%	1.3%	0.5%	－	－	－	－	3.2%	0.9%
この対象には実施していない	1.5%	1.3%	1.6%	1.3%	2.6%	－	1.9%	1.0%	－	1.6%	1.9%

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

● 就職ガイダンスの動員対策の実施を聞いたところ、実施比率が特に高かったのは「学内ポータル掲示（86.8%）」「メール配信（79.1%）」「紙チラシの学内掲示や設置（77.1%）」「教員への情報共有（74.6%）」の4つであった。前年と比較すると「告知文面や表現の見直し（2.7pt増）」が伸びた一方、上位項目は総じて前年並みで推移しており、複数チャネルを使って学生に情報を届ける方法が定着していることが伺える。
効果の高い動員対策（3つまで選択）は、「メール配信（43.4%）」が1位となり、2位は「教員への情報共有（40.8%）」、3位は「学内ポータル掲示（37.0%）」となった。上位3項目は前年と同様の顔ぶれであり、確実に学生に届くチャネルが引き続き重視されている。

キャリア・就職ガイダンスの動員対策で実施しているもの（複数回答）

	全体 (n=621)	国公立 (n=156)	私立 (n=465)	北海道・東北(n=78)	関東 (n=202)	甲信越・北陸(n=54)	東海(n=55)	関西 (n=106)	中国・四国 (n=63)	九州・沖縄 (n=63)	参考：前年調査
学内ポータル掲示	86.8%	82.1%	88.4%	82.1%	88.6%	81.5%	87.3%	87.7%	85.7%	90.5%	86.9%
メール配信	79.1%	82.1%	78.1%	79.5%	80.7%	74.1%	81.8%	77.4%	76.2%	81.0%	79.7%
紙チラシの学内掲示や設置	77.1%	85.3%	74.4%	79.5%	78.7%	75.9%	63.6%	82.1%	73.0%	77.8%	79.5%
教員への情報共有	74.6%	69.2%	76.3%	73.1%	77.7%	72.2%	65.5%	75.5%	77.8%	71.4%	73.2%
ガイダンス内容の具体化	42.4%	39.7%	43.2%	33.3%	48.0%	40.7%	40.0%	45.3%	38.1%	38.1%	42.9%
告知文面や表現の見直し	39.3%	41.0%	38.7%	25.6%	51.0%	44.4%	25.5%	34.9%	39.7%	33.3%	36.6%
紙チラシの学生配布	37.7%	37.8%	37.6%	33.3%	40.1%	35.2%	30.9%	41.5%	39.7%	34.9%	39.8%
告知はがき郵送	32.9%	24.4%	35.7%	20.5%	40.6%	22.2%	34.5%	37.7%	28.6%	27.0%	35.3%
対象学生の明確化	31.2%	29.5%	31.8%	26.9%	35.1%	31.5%	25.5%	34.0%	30.2%	25.4%	31.7%
SNS配信	29.3%	26.3%	30.3%	14.1%	38.6%	16.7%	27.3%	34.9%	22.2%	28.6%	30.5%
予約数の進捗確認や共有	23.7%	27.6%	22.4%	15.4%	26.7%	13.0%	21.8%	24.5%	33.3%	23.8%	28.1%
「マイナビ学生集め～る」など学外メッセージ配信サービス	20.9%	22.4%	20.4%	20.5%	21.8%	16.7%	23.6%	29.2%	14.3%	12.7%	22.7%
アクセスのよい参加場所や参加形態の用意	19.5%	23.1%	18.3%	7.7%	27.2%	16.7%	10.9%	17.9%	20.6%	20.6%	22.7%
告知ツールや媒体の見直し	16.1%	17.3%	15.7%	7.7%	21.8%	9.3%	12.7%	18.9%	17.5%	11.1%	15.9%
ガイダンス回数増	11.6%	14.1%	10.8%	6.4%	16.8%	7.4%	9.1%	9.4%	9.5%	12.7%	9.8%
告知場所の見直し	8.7%	7.1%	9.2%	6.4%	12.9%	3.7%	7.3%	10.4%	7.9%	1.6%	8.5%
その他	8.4%	9.0%	8.2%	6.4%	9.9%	9.3%	10.9%	4.7%	11.1%	6.3%	8.1%

動員対策で効果が高かった施策（複数回答・最大3つ）

	全体 (n=613)	国公立 (n=155)	私立 (n=458)	北海道・東北(n=78)	関東 (n=198)	甲信越・北陸(n=54)	東海(n=55)	関西 (n=105)	中国・四国 (n=61)	九州・沖縄 (n=62)	参考：前年調査
メール配信	43.4%	58.7%	38.2%	42.3%	46.5%	40.7%	40.0%	30.5%	50.8%	54.8%	36.5%
教員への情報共有	40.8%	27.7%	45.2%	43.6%	37.9%	35.2%	36.4%	52.4%	37.7%	38.7%	40.7%
学内ポータル掲示	37.0%	37.4%	36.9%	38.5%	35.4%	37.0%	41.8%	37.1%	37.7%	35.5%	37.4%
告知はがき郵送	19.2%	17.4%	19.9%	12.8%	24.2%	13.0%	23.6%	20.0%	11.5%	19.4%	19.7%
紙チラシの学内掲示や設置	18.3%	22.6%	16.8%	20.5%	17.7%	18.5%	12.7%	21.9%	14.8%	19.4%	18.1%
SNS配信	11.6%	7.1%	13.1%	3.8%	16.7%	7.4%	5.5%	16.2%	4.9%	12.9%	12.0%
紙チラシの学生配布	8.2%	7.7%	8.3%	12.8%	6.6%	5.6%	5.5%	7.6%	13.1%	8.1%	6.8%
ガイダンス内容の具体化	7.3%	7.1%	7.4%	5.1%	5.6%	9.3%	9.1%	12.4%	6.6%	4.8%	9.6%
告知文面や表現の見直し	7.2%	9.0%	6.6%	9.0%	9.6%	7.4%	−	5.7%	3.3%	9.7%	6.1%
対象学生の明確化	5.2%	7.1%	4.6%	5.1%	6.1%	5.6%	3.6%	4.8%	3.3%	6.5%	6.4%
アクセスのよい参加場所や参加形態の用意	4.1%	6.5%	3.3%	1.3%	4.5%	3.7%	3.6%	3.8%	4.9%	6.5%	3.1%
告知ツールや媒体の見直し	2.1%	3.2%	1.7%	−	3.0%	3.7%	−	2.9%	3.3%	−	1.9%
予約数の進捗確認や共有	1.8%	1.3%	2.0%	−	1.5%	−	−	2.9%	8.2%	−	3.0%
ガイダンス回数増	1.8%	1.9%	1.7%	1.3%	2.5%	1.9%	−	1.0%	1.6%	3.2%	2.3%
告知場所の見直し	1.6%	0.6%	2.0%	1.3%	2.5%	−	−	3.8%	−	−	1.0%
「マイナビ学生集め～る」など学外メッセージ配信サービス	1.3%	1.9%	1.1%	2.6%	1.0%	−	3.6%	1.9%	−	−	1.0%
その他	9.6%	9.0%	9.8%	7.7%	8.6%	16.7%	12.7%	6.7%	13.1%	8.1%	9.9%
効果が高かったものはなかった	5.4%	3.9%	5.9%	5.1%	4.5%	5.6%	9.1%	3.8%	9.8%	3.2%	7.8%

	エリア	学校区分	内容
その他の回答	関東	私立	授業内での告知
	東海	国公立	各専攻のTeamsへの投稿
	関東	私立	キャリアサポートセンターのInstagram投稿
	関東	私立	デジタルサイネージでの告知
	北海道・東北	国公立	学生同士の口コミ

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

(2) 2027年卒向けの採用広報を目的としない企業を招いてのインターンシップ等・業界研究セミナーについて

● 2027年卒学生への採用広報を目的としない業界研究セミナーは、「実施した（予定含む）」が66.1%（前年比1.6pt減）と約2/3の大学で実施されていた。延べ参加人数は「増えた」の回答が25.9%（前年比1.2pt減）、「減った」の回答は20.6%（前年比0.5pt減）となり、ほぼ前年並みの水準となった。
また、インターンシップ等・業界研究セミナー開催時期【学部3年生・修士1年生】（複数回答）は、2025年6月（42.7%）、5月（38.3%）、11月（36.6%）、10月（34.9%）が高く、夏休み前と冬休み前に開催が集中する傾向は昨年から変わっていない。

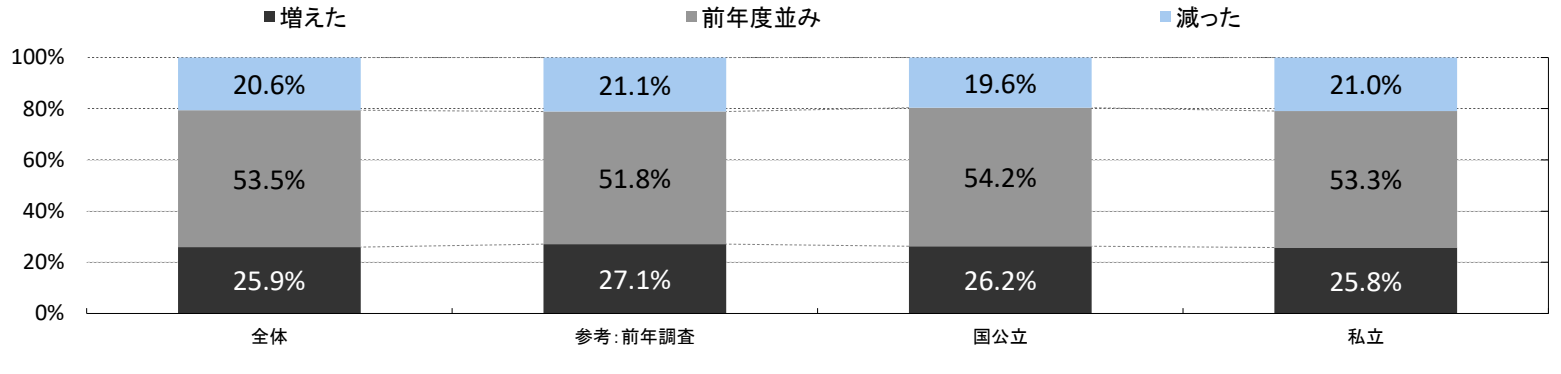
採用広報を目的としないインターンシップ等・業界研究セミナーの実施

	全体 (n=646)	国公立 (n=164)	私立 (n=482)	北海道・東北(n=82)	関東 (n=206)	甲信越・北陸(n=56)	東海(n=58)	関西 (n=113)	中国・四国 (n=66)	九州・沖縄 (n=65)	参考：前年調査
実施した（予定含む）	66.1%	69.5%	64.9%	64.6%	68.4%	69.6%	72.4%	60.2%	65.2%	63.1%	67.7%
実施していない	33.9%	30.5%	35.1%	35.4%	31.6%	30.4%	27.6%	39.8%	34.8%	36.9%	32.3%

2027年卒学生の延べ参加人数は2026年卒と比較して

	全体 (n=398)	国公立 (n=107)	私立 (n=291)	北海道・東北(n=49)	関東 (n=132)	甲信越・北陸(n=38)	東海(n=41)	関西(n=60)	中国・四国 (n=39)	九州・沖縄 (n=39)	参考：前年調査
増えた	25.9%	26.2%	25.8%	18.4%	32.6%	23.7%	34.1%	23.3%	15.4%	20.5%	27.1%
前年度並み	53.5%	54.2%	53.3%	61.2%	45.5%	63.2%	51.2%	45.0%	64.1%	66.7%	51.8%
減った	20.6%	19.6%	21.0%	20.4%	22.0%	13.2%	14.6%	31.7%	20.5%	12.8%	21.1%

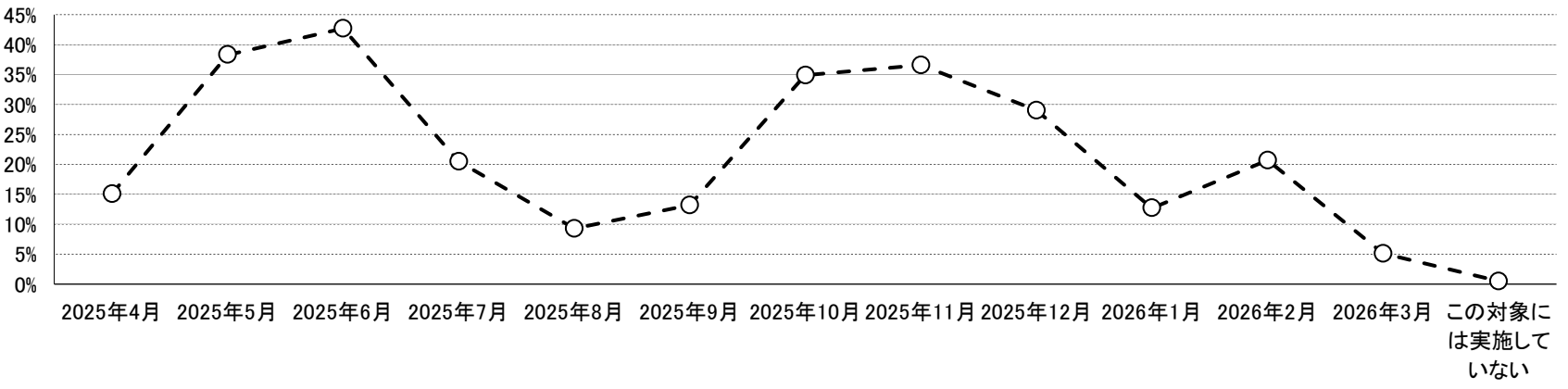
インターンシップ等・業界研究セミナー参加人数　前年と比較して



2027年卒向け　インターンシップ等・業界研究セミナー開催時期【学部3年生・修士1年生】（複数回答）

	全体 (n=410)	国公立 (n=110)	私立 (n=300)	北海道・東北(n=50)	関東 (n=135)	甲信越・北陸(n=39)	東海(n=41)	関西(n=64)	中国・四国 (n=41)	九州・沖縄 (n=40)	参考：前年調査
2025年4月	15.1%	20.0%	13.3%	16.0%	17.8%	15.4%	12.2%	9.4%	14.6%	17.5%	20.3%
2025年5月	38.3%	44.5%	36.0%	34.0%	48.9%	33.3%	36.6%	29.7%	26.8%	40.0%	37.7%
2025年6月	42.7%	40.9%	43.3%	30.0%	41.5%	43.6%	51.2%	45.3%	36.6%	55.0%	40.3%
2025年7月	20.5%	19.1%	21.0%	22.0%	14.8%	20.5%	26.8%	17.2%	29.3%	27.5%	21.0%
2025年8月	9.3%	5.5%	10.7%	2.0%	9.6%	7.7%	2.4%	12.5%	14.6%	15.0%	7.6%
2025年9月	13.2%	8.2%	15.0%	14.0%	13.3%	15.4%	4.9%	15.6%	12.2%	15.0%	11.9%
2025年10月	34.9%	43.6%	31.7%	38.0%	36.3%	28.2%	31.7%	40.6%	31.7%	30.0%	29.9%
2025年11月	36.6%	48.2%	32.3%	44.0%	31.9%	46.2%	36.6%	35.9%	31.7%	40.0%	40.5%
2025年12月	29.0%	36.4%	26.3%	24.0%	23.7%	23.1%	29.3%	32.8%	39.0%	42.5%	29.1%
2026年1月	12.7%	16.4%	11.3%	14.0%	12.6%	10.3%	7.3%	10.9%	19.5%	15.0%	14.9%
2026年2月	20.7%	16.4%	22.3%	30.0%	22.2%	12.8%	9.8%	15.6%	24.4%	27.5%	24.1%
2026年3月	5.1%	4.5%	5.3%	2.0%	5.9%	5.1%	2.4%	4.7%	4.9%	10.0%	6.1%
この対象には実施していない	0.5%	−	0.7%	−	−	−	2.4%	1.6%	−	−	1.8%

2027年卒向け　インターンシップ等・業界研究セミナー開催時期



Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

(3) 採用広報を目的とした学内企業説明会について（WEB含む）

● 採用広報を目的とした学内企業説明会は、「実施した（予定含む）」が77.9%（前年比2.7pt減）と高水準を保っている。延べ参加人数は「増えた」が19.6%（前年比0.9pt増）、「減った」は26.3%（前年比2.4pt減）となり、「前年度並み」が54.1%（1.5pt増）と横ばい傾向となった。延べ参加企業数は「増えた」の回答が18.3%（前年比1.6pt減）、「減った」の回答は19.1%（前年比0.6pt減）、「前年度並み」が62.7%（2.3pt増）と同様に横ばい傾向となった。
学内企業説明会の開催時期は、「2026年6月」が40.8%となり最多。「5月」が僅差で39.8%となった。次いで新年度前の「2月」も35.1%と高く、通年で開催されている状況が続いている。

2027年卒学生向けの採用広報を目的とした学内企業説明会の実施について

	全体 (n=646)	国公立 (n=164)	私立 (n=482)	北海道・東北(n=82)	関東 (n=206)	甲信越・北陸(n=56)	東海(n=58)	関西 (n=113)	中国・四国 (n=66)	九州・沖縄 (n=65)	参考:前年調査
実施した（予定含む）	77.9%	65.2%	82.2%	62.2%	81.6%	71.4%	79.3%	82.3%	81.8%	78.5%	80.6%
実施していない	22.1%	34.8%	17.8%	37.8%	18.4%	28.6%	20.7%	17.7%	18.2%	21.5%	19.4%

2027年卒学生の延べ参加人数は2026年卒と比較して

	全体 (n=479)	国公立 (n=98)	私立 (n=381)	北海道・東北(n=52)	関東 (n=159)	甲信越・北陸(n=40)	東海(n=42)	関西(n=87)	中国・四国 (n=47)	九州・沖縄 (n=52)	参考:前年調査
増えた	19.6%	14.3%	21.0%	15.4%	27.0%	10.0%	19.0%	21.8%	10.6%	13.5%	18.7%
前年度並み	54.1%	52.0%	54.6%	55.8%	45.3%	75.0%	50.0%	50.6%	72.3%	55.8%	52.6%
減った	26.3%	33.7%	24.4%	28.8%	27.7%	15.0%	31.0%	27.6%	17.0%	30.8%	28.7%

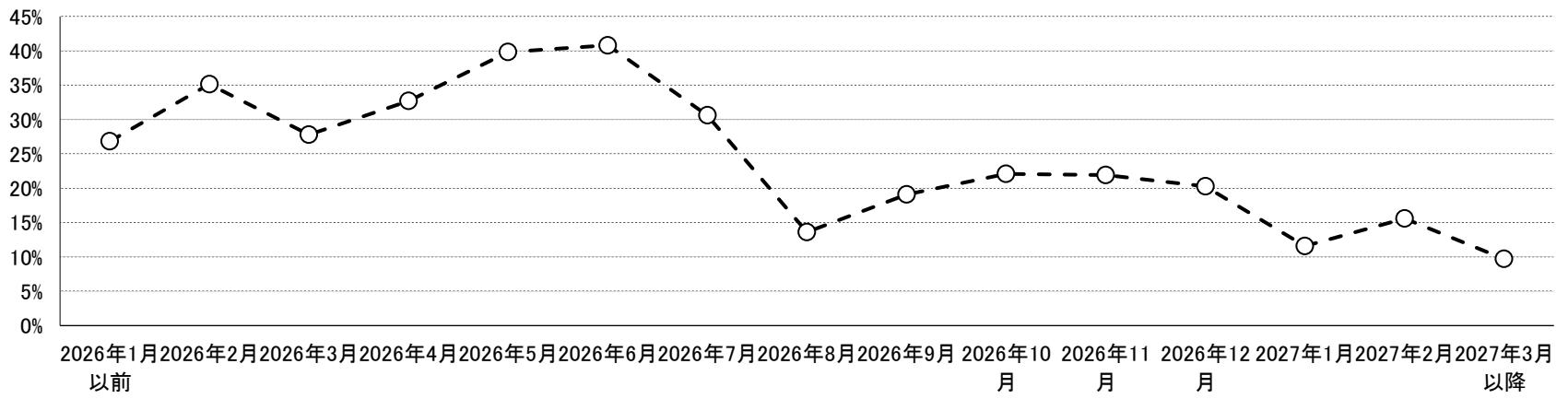
2027年卒学生の延べ参加企業数は2026年卒と比較して

	全体 (n=493)	国公立 (n=103)	私立 (n=390)	北海道・東北(n=54)	関東 (n=164)	甲信越・北陸(n=40)	東海(n=42)	関西(n=91)	中国・四国 (n=50)	九州・沖縄 (n=52)	参考:前年調査
増えた	18.3%	19.4%	17.9%	20.4%	17.1%	17.5%	14.3%	22.0%	18.0%	17.3%	19.9%
前年度並み	62.7%	60.2%	63.3%	63.0%	60.4%	67.5%	61.9%	59.3%	70.0%	65.4%	60.4%
減った	19.1%	20.4%	18.7%	16.7%	22.6%	15.0%	23.8%	18.7%	12.0%	17.3%	19.7%

2027年卒向け　学内企業説明会の開催時期（複数回答）

	全体 (n=507)	国公立 (n=104)	私立 (n=403)	北海道・東北(n=54)	関東 (n=167)	甲信越・北陸(n=43)	東海(n=45)	関西(n=93)	中国・四国 (n=51)	九州・沖縄 (n=54)	参考:前年調査
2026年1月以前	26.8%	26.0%	27.0%	22.2%	30.5%	23.3%	28.9%	31.2%	11.8%	27.8%	27.4%
2026年2月	35.1%	26.0%	37.5%	35.2%	38.9%	37.2%	31.1%	38.7%	19.6%	33.3%	35.7%
2026年3月	27.8%	50.0%	22.1%	22.2%	25.7%	25.6%	24.4%	21.5%	45.1%	38.9%	31.0%
2026年4月	32.7%	39.4%	31.0%	27.8%	26.9%	32.6%	24.4%	35.5%	56.9%	35.2%	33.5%
2026年5月	39.8%	41.3%	39.5%	31.5%	41.9%	34.9%	24.4%	45.2%	54.9%	35.2%	41.4%
2026年6月	40.8%	43.3%	40.2%	37.0%	45.5%	32.6%	26.7%	40.9%	52.9%	37.0%	40.8%
2026年7月	30.6%	28.8%	31.0%	33.3%	27.5%	27.9%	17.8%	34.4%	45.1%	29.6%	32.9%
2026年8月	13.6%	18.3%	12.4%	14.8%	9.0%	18.6%	8.9%	11.8%	23.5%	20.4%	15.0%
2026年9月	19.1%	22.1%	18.4%	20.4%	17.4%	25.6%	8.9%	16.1%	29.4%	22.2%	18.9%
2026年10月	22.1%	24.0%	21.6%	25.9%	18.6%	18.6%	20.0%	21.5%	33.3%	24.1%	23.3%
2026年11月	21.9%	22.1%	21.8%	25.9%	18.6%	20.9%	20.0%	21.5%	31.4%	22.2%	21.9%
2026年12月	20.3%	21.2%	20.1%	25.9%	18.6%	14.0%	13.3%	20.4%	31.4%	20.4%	19.3%
2027年1月	11.6%	12.5%	11.4%	9.3%	9.0%	4.7%	8.9%	14.0%	25.5%	13.0%	12.0%
2027年2月	15.6%	15.4%	15.6%	13.0%	13.2%	14.0%	17.8%	19.4%	21.6%	13.0%	15.2%

2027年卒向け 学内企業説明会開催時期



Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

(4) キャリア教育・支援やインターンシップ等について

● 低学年（学部1・2年生）対象のキャリアに関する授業（正課）は79.9%（前年比1.7pt減）が実施していた。開始時期は「学部1年生4月」が62.7%と突出して高く、次点で「学部2年生4月」が13.9%となった。

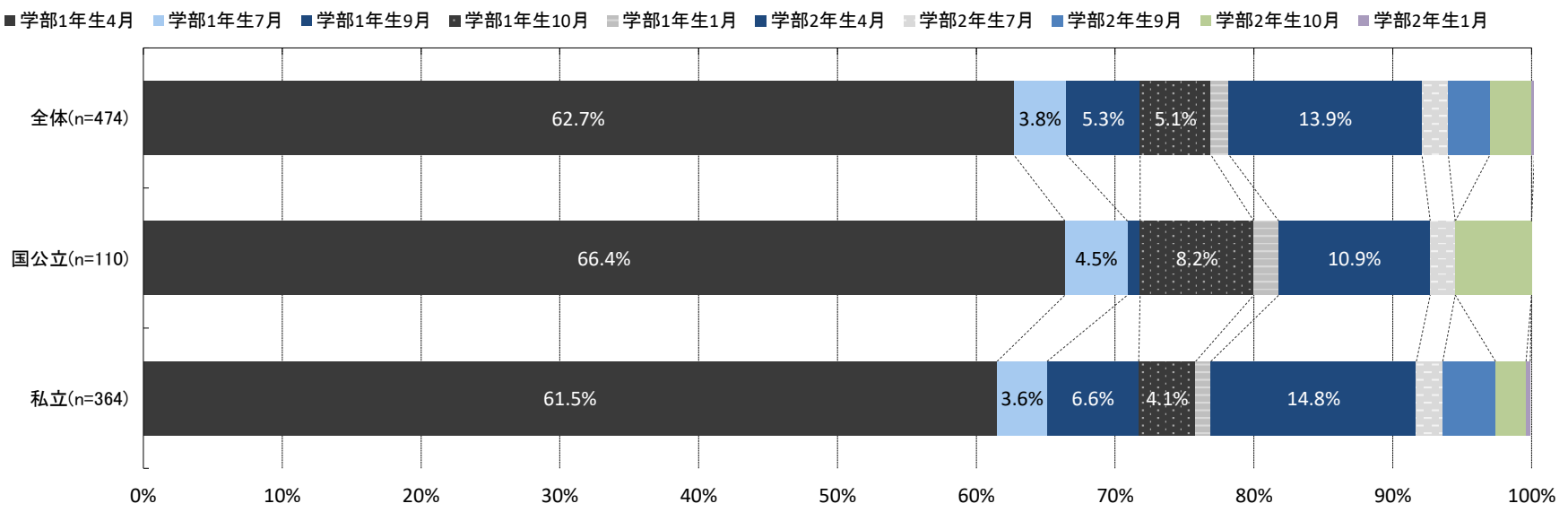
【低学年（学部1・2年生）対象】キャリアに関する授業（正課）を実施しているか

	全体 (n=646)	国公立 (n=164)	私立 (n=482)	北海道・東北(n=82)	関東 (n=206)	甲信越・北陸(n=56)	東海(n=58)	関西 (n=113)	中国・四国 (n=66)	九州・沖縄 (n=65)	参考：前年調査
はい	79.9%	75.0%	81.5%	80.5%	77.7%	73.2%	75.9%	81.4%	87.9%	84.6%	81.6%
いいえ	20.1%	25.0%	18.5%	19.5%	22.3%	26.8%	24.1%	18.6%	12.1%	15.4%	18.4%

【低学年（学部1・2年生）対象】キャリアに関する授業（正課）開始時期

	全体 (n=474)	国公立 (n=110)	私立 (n=364)	北海道・東北(n=60)	関東 (n=147)	甲信越・北陸(n=39)	東海(n=39)	関西(n=85)	中国・四国 (n=53)	九州・沖縄 (n=51)	参考：前年調査
学部1年生4月	62.7%	66.4%	61.5%	51.7%	69.4%	59.0%	61.5%	57.6%	66.0%	64.7%	64.7%
学部1年生7月	3.8%	4.5%	3.6%	5.0%	2.0%	2.6%	2.6%	4.7%	5.7%	5.9%	3.5%
学部1年生9月	5.3%	0.9%	6.6%	8.3%	5.4%	7.7%	5.1%	4.7%	1.9%	3.9%	6.5%
学部1年生10月	5.1%	8.2%	4.1%	11.7%	2.0%	2.6%	7.7%	3.5%	3.8%	9.8%	5.4%
学部1年生1月	1.3%	1.8%	1.1%	3.3%	1.4%	−	2.6%	1.2%	−	−	0.4%
学部2年生4月	13.9%	10.9%	14.8%	15.0%	12.2%	17.9%	17.9%	17.6%	11.3%	7.8%	13.4%
学部2年生7月	1.9%	1.8%	1.9%	−	0.7%	2.6%	−	3.5%	3.8%	3.9%	1.5%
学部2年生9月	3.0%	−	3.8%	1.7%	4.1%	2.6%	2.6%	2.4%	3.8%	2.0%	2.8%
学部2年生10月	3.0%	5.5%	2.2%	3.3%	2.7%	2.6%	−	4.7%	3.8%	2.0%	1.5%
学部2年生1月	0.2%	−	0.3%	−	−	2.6%	−	−	−	−	0.2%

【低学年（学部1・2年生）対象】キャリアに関する授業（正課）開始時期



Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

● キャリア教育（正課）への受講履修者の割合を聞いた。各学年の最多割合は、大学1年生対象では「10割」の38.2%となった。大学2年生対象では「3割以下」の32.4%となった。大学1年生が高い傾向にあり、入学してまだ間もない時期に、キャリア教育を必修授業として設定している大学が多いことが推察される。
低学年（大学1、2年生）対象のキャリア教育（正課）内容に関しては1位「職業観涵養、キャリア形成を目的とした授業」が92.0%（前年比0.1pt増）、2位「社会人基礎力の醸成を目的とした授業」が74.1%（前年比3.4pt増）と実施率が高かった。正課外では「職業観涵養、キャリア形成を目的としたプログラム」が65.3%で最多となった。今後注力したい内容でも「職業観涵養、キャリア形成を目的とした授業・プログラム」が59.2%と最も高く、キャリア形成の土台づくりが引き続き重視されている。

キャリア教育（正課）への受講について、1学年の在籍人数を母数としたときの履修者の割合

【学部1年生対象】	全体 (n=432)	国公立 (n=99)	私立 (n=333)	北海道・東北(n=58)	関東 (n=134)	甲信越・北陸(n=35)	東海(n=36)	関西(n=72)	中国・四国 (n=49)	九州・沖縄 (n=48)	参考：前年調査
10割	38.2%	35.4%	39.0%	48.3%	29.9%	34.3%	63.9%	31.9%	34.7%	45.8%	38.2%
8～9割	13.7%	10.1%	14.7%	10.3%	14.2%	20.0%	2.8%	12.5%	20.4%	14.6%	12.6%
6～7割	7.2%	5.1%	7.8%	8.6%	7.5%	2.9%	2.8%	9.7%	4.1%	10.4%	6.4%
4～5割	4.9%	7.1%	4.2%	6.9%	4.5%	5.7%	8.3%	2.8%	2.0%	6.3%	8.1%
3割以下	20.1%	27.3%	18.0%	15.5%	28.4%	20.0%	8.3%	20.8%	20.4%	10.4%	19.2%
この対象では実施していない	16.0%	15.2%	16.2%	10.3%	15.7%	17.1%	13.9%	22.2%	18.4%	12.5%	15.6%

【学部2年生対象】	全体 (n=423)	国公立 (n=93)	私立 (n=330)	北海道・東北(n=55)	関東 (n=133)	甲信越・北陸(n=33)	東海(n=35)	関西(n=76)	中国・四国 (n=45)	九州・沖縄 (n=46)	参考：前年調査
10割	28.4%	24.7%	29.4%	30.9%	27.8%	27.3%	42.9%	21.1%	26.7%	30.4%	28.0%
8～9割	12.8%	6.5%	14.5%	9.1%	11.3%	24.2%	11.4%	14.5%	15.6%	8.7%	8.2%
6～7割	9.5%	6.5%	10.3%	5.5%	8.3%	9.1%	－	10.5%	8.9%	23.9%	8.2%
4～5割	9.0%	10.8%	8.5%	14.5%	9.0%	9.1%	11.4%	3.9%	6.7%	10.9%	10.2%
3割以下	32.4%	41.9%	29.7%	29.1%	36.8%	27.3%	25.7%	43.4%	28.9%	17.4%	33.7%
この対象では実施していない	8.0%	9.7%	7.6%	10.9%	6.8%	3.0%	8.6%	6.6%	13.3%	8.7%	11.7%

【低学年（学部1・2年生）対象】キャリア教育（正課）についての関わり（複数回答）

	全体 (n=477)	国公立 (n=111)	私立 (n=366)	北海道・東北(n=60)	関東 (n=149)	甲信越・北陸(n=40)	東海(n=40)	関西(n=86)	中国・四国 (n=51)	九州・沖縄 (n=51)	参考：前年調査
授業内容について、授業担当教員と相談して決めている	44.7%	41.4%	45.6%	45.0%	41.6%	50.0%	47.5%	48.8%	45.1%	39.2%	41.6%
授業で登壇する機会がある	41.1%	32.4%	43.7%	33.3%	43.6%	32.5%	42.5%	44.2%	41.2%	43.1%	38.8%
授業の履修状況を把握している	31.2%	31.5%	31.1%	38.3%	30.2%	30.0%	25.0%	36.0%	25.5%	29.4%	34.9%
授業のアンケートなどを確認している	24.9%	24.3%	25.1%	30.0%	24.8%	25.0%	17.5%	27.9%	21.6%	23.5%	25.9%
その他	13.0%	16.2%	12.0%	13.3%	16.1%	10.0%	5.0%	11.6%	13.7%	13.7%	11.2%
特に関わっていることはない	22.0%	27.0%	20.5%	26.7%	20.1%	17.5%	35.0%	14.0%	25.5%	25.5%	25.2%

【低学年（学部1・2年生）対象】キャリア教育の中で取り組まれている内容。（複数回答可）

【正課】	全体 (n=460)	国公立 (n=106)	私立 (n=354)	北海道・東北(n=59)	関東 (n=146)	甲信越・北陸(n=37)	東海(n=38)	関西(n=81)	中国・四国 (n=50)	九州・沖縄 (n=49)	参考：前年調査
職業観涵養、キャリア形成を目的とした授業	92.0%	92.5%	91.8%	91.5%	93.8%	91.9%	92.1%	91.4%	92.0%	87.8%	91.9%
社会人基礎力の醸成を目的とした授業	74.1%	71.7%	74.9%	79.7%	73.3%	70.3%	71.1%	75.3%	74.0%	73.5%	70.7%
就業体験を伴う授業（インターンシップ等）	34.6%	44.3%	31.6%	30.5%	34.2%	27.0%	34.2%	33.3%	44.0%	38.8%	33.8%
働くことに関するルール（労働関係法令等）の授業	29.1%	27.4%	29.7%	25.4%	29.5%	27.0%	34.2%	34.6%	24.0%	26.5%	27.0%
企業と連携して実施する課題解決型の授業（PBL）	28.0%	36.8%	25.4%	20.3%	25.3%	27.0%	26.3%	33.3%	30.0%	36.7%	26.4%
資格取得・就職対策等を目的とした授業	21.3%	12.3%	24.0%	16.9%	27.4%	10.8%	15.8%	23.5%	22.0%	16.3%	20.5%
男女共同参画の視点を踏まえたキャリア授業	20.2%	21.7%	19.8%	16.9%	22.6%	21.6%	21.1%	14.8%	22.0%	22.4%	18.0%
ポートフォリオを活用したキャリア形成に関する授業	17.2%	16.0%	17.5%	13.6%	19.9%	16.2%	10.5%	16.0%	22.0%	16.3%	15.5%
アントレプレナーシップの視点を踏まえた授業	13.0%	20.8%	10.7%	10.2%	11.6%	16.2%	15.8%	8.6%	18.0%	18.4%	12.4%
この対象では、実施していない	2.6%	3.8%	2.3%	5.1%	2.1%	－	－	2.5%	2.0%	6.1%	2.3%

【正課外】	全体 (n=545)	国公立 (n=131)	私立 (n=414)	北海道・東北(n=72)	関東 (n=166)	甲信越・北陸(n=48)	東海(n=51)	関西(n=91)	中国・四国 (n=59)	九州・沖縄 (n=58)	参考：前年調査
職業観涵養、キャリア形成を目的としたプログラム	65.3%	61.1%	66.7%	70.8%	68.7%	62.5%	52.9%	62.6%	67.8%	63.8%	62.4%
社会人基礎力の醸成を目的としたプログラム	49.9%	44.3%	51.7%	54.2%	52.4%	50.0%	43.1%	44.0%	49.2%	53.4%	46.3%
資格取得・就職対策等を目的としたプログラム	26.8%	21.4%	28.5%	26.4%	30.1%	20.8%	23.5%	24.2%	28.8%	27.6%	25.0%
就業体験を伴うプログラム（インターンシップ等）	25.0%	26.0%	24.6%	19.4%	24.1%	16.7%	15.7%	24.2%	32.2%	43.1%	25.2%
企業と連携して実施する課題解決型のプログラム（PBL）	16.7%	19.1%	15.9%	12.5%	19.3%	16.7%	9.8%	22.0%	15.3%	13.8%	16.3%
働くことに関するルール（労働関係法令等）におけるプログラム	16.0%	12.2%	17.1%	18.1%	11.4%	18.8%	23.5%	15.4%	16.9%	17.2%	14.5%
ポートフォリオを活用したキャリア形成に関するプログラム	9.2%	6.1%	10.1%	11.1%	10.2%	8.3%	5.9%	7.7%	10.2%	8.6%	8.9%
アントレプレナーシップの視点を踏まえたプログラム	8.8%	12.2%	7.7%	6.9%	10.2%	10.4%	7.8%	8.8%	6.8%	8.6%	9.1%
男女共同参画の視点を踏まえたプログラム	8.4%	8.4%	8.5%	8.3%	7.8%	6.3%	7.8%	7.7%	8.5%	13.8%	7.4%
この対象では、実施していない	19.3%	23.7%	17.9%	11.1%	17.5%	22.9%	27.5%	23.1%	16.9%	20.7%	22.5%

【低学年（学部1・2年生）対象】キャリア教育（正課・正課外問わず）の中で今後注力したい内容（複数回答可）

	全体 (n=505)	国公立 (n=114)	私立 (n=391)	北海道・東北(n=69)	関東 (n=159)	甲信越・北陸(n=42)	東海(n=44)	関西(n=84)	中国・四国 (n=52)	九州・沖縄 (n=55)	参考：前年調査
職業観涵養、キャリア形成を目的とした授業・プログラム	59.2%	64.9%	57.5%	66.7%	59.1%	64.3%	50.0%	52.4%	65.4%	58.2%	61.1%
社会人基礎力の醸成を目的とした授業・プログラム	47.5%	42.1%	49.1%	53.6%	50.3%	35.7%	34.1%	46.4%	53.8%	47.3%	50.9%
就業体験を伴う授業・プログラム（インターンシップ等）	34.3%	31.6%	35.0%	29.0%	34.6%	40.5%	38.6%	40.5%	30.8%	25.5%	36.9%
企業と連携して実施する課題解決型の授業・プログラム（PBL）	32.3%	24.6%	34.5%	21.7%	34.0%	19.0%	34.1%	41.7%	25.0%	41.8%	34.2%
資格取得・就職対策等を目的とした授業・プログラム	19.8%	16.7%	20.7%	20.3%	19.5%	23.8%	25.0%	17.9%	21.2%	14.5%	18.0%
働くことに関するルール（労働関係法令等）における授業・プログラム	17.8%	17.5%	17.9%	23.2%	16.4%	14.3%	18.2%	19.0%	17.3%	16.4%	18.6%
ポートフォリオを活用したキャリア形成に関する授業・プログラム	16.2%	13.2%	17.1%	13.0%	17.0%	11.9%	20.5%	16.7%	13.5%	20.0%	16.4%
アントレプレナーシップの視点を踏まえた授業・プログラム	13.9%	16.7%	13.0%	7.2%	17.0%	9.5%	11.4%	11.9%	17.3%	18.2%	13.5%
男女共同参画の視点を踏まえた授業・プログラム	7.9%	8.8%	7.7%	10.1%	3.8%	4.8%	9.1%	8.3%	9.6%	16.4%	9.7%
その他	3.6%	4.4%	3.3%	1.4%	5.0%	4.8%	2.3%	3.6%	1.9%	3.6%	3.9%

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

● 大学で実施する単位認定型のインターンシップの実施に関して、2027年卒は「例年通り実施」が61.7%（前年比1.3pt減）となった。「実施しなかった」は31.1%（前年比0.7pt増）となり実施はやや減少傾向にある。2028年卒に向けた予定では、「例年通り実施」が59.7%（前年比2.2pt減）、「実施しない」は27.6%（前年比2.0pt増）となっており、引き続き多くの大学が実施する予定となっている。
アセスメントツールの受検は「実施していない」が39.0%（前年比4.3pt増）。実施している学年は「学部3年生」が最多の83.1%であったが、「学部1年生」が73.0%、「学部2年生」が44.9%と低学年での実施率も高かった。学年ごとに受検をして経年変化を見る大学の実施例もある。活用方法は「学生への個別フォローに活用している」が66.3%と最多となった。

【2027年卒実績】単位認定型インターンシップを実施しましたか

	全体 (n=575)	国公立 (n=141)	私立 (n=434)	北海道・東北(n=74)	関東 (n=179)	甲信越・北陸(n=52)	東海(n=53)	関西(n=99)	中国・四国 (n=58)	九州・沖縄 (n=60)	参考:前年調査
例年通り実施	61.7%	65.2%	60.6%	58.1%	55.9%	57.7%	73.6%	60.6%	74.1%	66.7%	63.0%
規模を縮小して実施	1.4%	1.4%	1.4%	2.7%	1.7%	1.9%	−	−	1.7%	1.7%	1.4%
規模を拡大して実施	0.7%	−	0.9%	−	1.7%	−	−	1.0%	−	−	0.7%
実施しなかった	31.1%	30.5%	31.3%	32.4%	34.6%	36.5%	24.5%	33.3%	20.7%	26.7%	30.4%
その他	5.0%	2.8%	5.8%	6.8%	6.1%	3.8%	1.9%	5.1%	3.4%	5.0%	4.3%

【2028年卒予定】単位認定型インターンシップを実施する予定ですか

	全体 (n=576)	国公立 (n=140)	私立 (n=436)	北海道・東北(n=75)	関東 (n=179)	甲信越・北陸(n=52)	東海(n=52)	関西(n=97)	中国・四国 (n=60)	九州・沖縄 (n=61)	参考:前年調査
例年通り実施	59.7%	62.1%	58.9%	52.0%	53.6%	55.8%	71.2%	57.7%	75.0%	68.9%	61.9%
規模を縮小して実施	2.3%	1.4%	2.5%	2.7%	2.8%	−	1.9%	3.1%	1.7%	1.6%	1.8%
規模を拡大して実施	1.2%	0.7%	1.4%	2.7%	1.1%	1.9%	−	2.1%	−	−	0.9%
実施しない	27.6%	28.6%	27.3%	29.3%	30.7%	36.5%	23.1%	27.8%	20.0%	19.7%	25.6%
まだ決まっていない	5.0%	2.9%	5.7%	9.3%	5.0%	3.8%	1.9%	5.2%	1.7%	6.6%	5.4%
その他	4.2%	4.3%	4.1%	4.0%	6.7%	1.9%	1.9%	4.1%	1.7%	3.3%	4.4%

アセスメントツール実施有無について

	全体 (n=646)	国公立 (n=164)	私立 (n=482)	北海道・東北(n=82)	関東 (n=206)	甲信越・北陸(n=56)	東海(n=58)	関西 (n=113)	中国・四国 (n=66)	九州・沖縄 (n=65)	参考:前年調査
貴部署で実施している	24.5%	20.1%	25.9%	23.2%	24.8%	28.6%	25.9%	23.9%	22.7%	23.1%	24.5%
他部署で実施している	18.9%	8.5%	22.4%	12.2%	20.9%	14.3%	25.9%	19.5%	15.2%	21.5%	17.3%
貴部署でも他部署でも実施している	5.6%	4.9%	5.8%	9.8%	5.8%	7.1%	3.4%	2.7%	4.5%	6.2%	7.8%
実施していない	39.0%	47.6%	36.1%	42.7%	38.8%	35.7%	32.8%	39.8%	43.9%	36.9%	34.7%
わからない	12.1%	18.9%	9.8%	12.2%	9.7%	14.3%	12.1%	14.2%	13.6%	12.3%	15.7%

アセスメントツール受検を実施している学年（複数回答可）

	全体 (n=296)	国公立 (n=50)	私立 (n=246)	北海道・東北(n=35)	関東(n=98)	甲信越・北陸(n=27)	東海(n=30)	関西(n=49)	中国・四国 (n=27)	九州・沖縄 (n=30)	参考:前年調査
学部1年生	73.0%	58.0%	76.0%	77.1%	71.4%	74.1%	73.3%	67.3%	70.4%	83.3%	67.8%
学部2年生	44.9%	54.0%	43.1%	45.7%	38.8%	59.3%	50.0%	42.9%	33.3%	60.0%	48.8%
学部3年生	83.1%	74.0%	85.0%	91.4%	82.7%	85.2%	90.0%	75.5%	85.2%	76.7%	80.2%
学部4年生	19.9%	16.0%	20.7%	25.7%	16.3%	29.6%	23.3%	10.2%	14.8%	33.3%	21.9%
修士1年生	11.5%	32.0%	7.3%	14.3%	13.3%	14.8%	10.0%	4.1%	11.1%	13.3%	9.9%
修士2年生	5.4%	14.0%	3.7%	−	8.2%	11.1%	6.7%	−	−	10.0%	4.2%
その他	4.7%	10.0%	3.7%	2.9%	7.1%	−	3.3%	4.1%	7.4%	3.3%	4.9%

アセスメントツール受検結果の活用方法（複数回答可）

	全体 (n=282)	国公立 (n=46)	私立 (n=236)	北海道・東北(n=34)	関東(n=94)	甲信越・北陸(n=26)	東海(n=28)	関西(n=48)	中国・四国 (n=26)	九州・沖縄 (n=26)	参考:前年調査
学生への個別フォローに活用している	66.3%	67.4%	66.1%	67.6%	61.7%	76.9%	78.6%	54.2%	76.9%	69.2%	66.9%
全体傾向を基に企画などに活用している	37.6%	34.8%	38.1%	32.4%	40.4%	57.7%	32.1%	33.3%	30.8%	34.6%	43.6%
認証評価における実施施策として活用している	26.6%	8.7%	30.1%	29.4%	25.5%	30.8%	25.0%	25.0%	34.6%	19.2%	24.0%
その他	14.9%	13.0%	15.3%	23.5%	16.0%	11.5%	10.7%	18.8%	3.8%	11.5%	17.5%

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

(5) 大学で行っている就職支援について

● 学生が生成系AI（ChatGPTなど）を利用して就職活動している実感があるかどうかを聞いたところ、「実感がある」は93.5%（前年比15.3pt増）と前年から大きく上昇し、学生のAI利用が一般化していることがうかがえる。学生が就職活動において生成系AI（ChatGPTなど）を活用することに対しての考えに関しては、「積極的に活用してほしいと思う」が17.3%（前年比1.9pt増）となったが、「使い方を慎重に検討したうえで活用してほしいと思う」が79.5%（前年比3.3pt増）と圧倒的に高かった。活用してほしいと考えつつも、個人情報や真偽不明なデータの取り扱いなどリスクがあることとセットで伝える必要もあり、慎重な検討もしてほしいという思いが交錯する結果となった。

近年増えているAI面接の対策として、今後実施したいもの（現在実施しているものを含む）を聞いたところ、「AI面接模擬ツールの提供・活用支援」が35.9%、「AI面接対策セミナーの実施」が34.6%、「AI面接導入企業の情報提供」が26.7%となった。一方で「特にない」も38.1%と最も高い数値となっており、対策に着手している大学と、まだ検討段階にとどまる大学とで対応が分かれている状況がうかがえる。

学生へのキャリア・就職支援においてどのようにAIを活用しているかを聞いたところ、1位は「文書作成・校正（案内文・メール等）」が42.1%、2位は「エントリーシート（ES）・履歴書の添削支援」が39.2%、3位は「ガイダンス・イベント企画（企画書・スライド作成等）」が26.5%となった。「特に活用していない」は31.1%であった。学生への直接支援よりも、案内文の作成や企画立案といった業務側での活用が先行しており、まずは業務効率化の手段としてAIの導入が進んでいると推察される。

学生が生成系AI（ChatGPTなど）を利用して就職活動している実感があるかどうか

	全体 (n=598)	国公立 (n=148)	私立 (n=450)	北海道・東北(n=73)	関東 (n=190)	甲信越・北陸(n=53)	東海(n=54)	関西 (n=106)	中国・四国 (n=61)	九州・沖縄 (n=61)	参考：前年調査
実感がある	93.5%	92.6%	93.8%	90.4%	95.8%	88.7%	94.4%	94.3%	93.4%	91.8%	78.2%
実感はない	6.5%	7.4%	6.2%	9.6%	4.2%	11.3%	5.6%	5.7%	6.6%	8.2%	21.8%

学生が就職活動において生成系AI（ChatGPTなど）を活用することに対しての考え

	全体 (n=601)	国公立 (n=146)	私立 (n=455)	北海道・東北(n=75)	関東 (n=191)	甲信越・北陸(n=52)	東海(n=53)	関西 (n=107)	中国・四国 (n=61)	九州・沖縄 (n=62)	参考：前年調査
積極的に活用してほしいと思う	17.3%	12.3%	18.9%	13.3%	17.8%	23.1%	17.0%	16.8%	24.6%	9.7%	15.4%
使い方を慎重に検討したうえで活用してほしいと思う	79.5%	80.8%	79.1%	81.3%	80.6%	69.2%	79.2%	80.4%	73.8%	87.1%	76.2%
就職活動には利用しない方がよいと思う	1.2%	1.4%	1.1%	1.3%	0.5%	1.9%	1.9%	1.9%	−	1.6%	2.3%
わからない	2.0%	5.5%	0.9%	4.0%	1.0%	5.8%	1.9%	0.9%	1.6%	1.6%	6.1%

AI面接の対策として今後実施したいもの（現在実施しているものを含む）（複数回答）

	全体 (n=596)	国公立 (n=145)	私立 (n=451)	北海道・東北(n=74)	関東 (n=190)	甲信越・北陸(n=52)	東海(n=53)	関西 (n=106)	中国・四国 (n=61)	九州・沖縄 (n=60)
AI面接対策セミナーの実施	34.6%	31.7%	35.5%	25.7%	41.6%	38.5%	37.7%	34.0%	23.0%	30.0%
AI面接模擬ツールの提供・活用支援	35.9%	27.6%	38.6%	25.7%	42.1%	46.2%	41.5%	36.8%	18.0%	31.7%
AI面接導入企業の情報提供	26.7%	17.9%	29.5%	20.3%	36.3%	15.4%	22.6%	26.4%	21.3%	23.3%
その他	3.5%	1.4%	4.2%	5.4%	4.7%	3.8%	−	3.8%	1.6%	1.7%
特にない	38.1%	46.2%	35.5%	48.6%	26.8%	32.7%	37.7%	37.7%	55.7%	48.3%

学生へのキャリア・就職支援におけるAIの活用方法（複数回答）

	全体 (n=582)	国公立 (n=143)	私立 (n=439)	北海道・東北(n=74)	関東 (n=182)	甲信越・北陸(n=52)	東海(n=50)	関西 (n=105)	中国・四国 (n=60)	九州・沖縄 (n=59)
エントリーシート（ES）・履歴書の添削支援	39.2%	25.2%	43.7%	35.1%	38.5%	42.3%	36.0%	46.7%	41.7%	30.5%
自己分析支援	11.3%	6.3%	13.0%	9.5%	14.3%	5.8%	14.0%	17.1%	−	8.5%
面接対策（AI模擬面接ツールの提供等）	14.9%	9.1%	16.9%	12.2%	19.2%	19.2%	18.0%	14.3%	10.0%	5.1%
学生からのキャリア相談対応（AIチャットボット等）	4.1%	2.8%	4.6%	5.4%	5.5%	1.9%	2.0%	3.8%	1.7%	5.1%
学生の活動データ分析	8.1%	4.9%	9.1%	6.8%	9.3%	5.8%	12.0%	11.4%	1.7%	5.1%
留学生支援（翻訳・多言語対応ツール等）	5.7%	8.4%	4.8%	2.7%	5.5%	5.8%	2.0%	5.7%	10.0%	8.5%
求人票の要約・比較	3.3%	0.7%	4.1%	2.7%	4.4%	−	6.0%	5.7%	−	−
ガイダンス・イベント企画（企画書・スライド作成等）	26.5%	18.2%	29.2%	17.6%	31.9%	23.1%	26.0%	31.4%	23.3%	18.6%
文書作成・校正（案内文・メール等）	42.1%	33.6%	44.9%	39.2%	50.0%	36.5%	30.0%	41.9%	40.0%	39.0%
面談記録の要約・整理	7.0%	4.9%	7.7%	5.4%	6.6%	9.6%	6.0%	10.5%	5.0%	5.1%
その他	5.0%	5.6%	4.8%	8.1%	4.9%	5.8%	6.0%	2.9%	6.7%	1.7%
特に活用していない	31.1%	42.7%	27.3%	39.2%	26.4%	34.6%	36.0%	23.8%	31.7%	40.7%

● 学生支援において形成することが難しいと感じる点を聞いたところ、1位は「学生がやりたい仕事を見つけること」で54.0%となった。次いで「学生がどんな仕事に適性があるか理解すること」が46.2%、「学生が自分の希望するキャリアを実現するために、自分なりに努力すること」が44.3%、「学生がどんな仕事に興味や関心があるのかを理解すること」が42.6%と続いた。上位には仕事理解・自己理解に関する項目が並んでおり、学生が自身の方向性を定める段階での支援に難しさを感じている様子がうかがえる。なお「特にない」は3.6%にとどまった。

また、卒業年次の夏以降に就職活動を継続している学生への支援について、特に課題・難しさを感じる点を聞いたところ、「学生との接点の取りづらさ」が62.1%と最多となった。次いで「学生の進捗状況が不明」が56.6%、「学生の準備不足」が49.8%、「学生の精神的な不安・焦りへの対応」が41.1%となった。上位2項目はいずれも学生の状況把握に関わる内容であり、後半まで活動が続く層をいかに捕捉し、接点を維持するかが共通の課題になっていると言える。

学生支援において形成することが難しいと感じる点（複数回答）

	全体 (n=585)	国公立 (n=142)	私立 (n=443)	北海道・東北(n=75)	関東 (n=188)	甲信越・北陸(n=52)	東海(n=49)	関西 (n=103)	中国・四国 (n=59)	九州・沖縄 (n=59)
学生がやりたい仕事を見つけること	54.0%	41.5%	58.0%	45.3%	59.0%	53.8%	46.9%	55.3%	62.7%	44.1%
学生がどんな仕事に適性があるか理解すること	46.2%	43.7%	47.0%	50.7%	48.4%	46.2%	34.7%	43.7%	50.8%	42.4%
学生が自分の希望するキャリアを実現するために、自分なりに努力すること	44.3%	33.1%	47.9%	40.0%	46.8%	44.2%	44.9%	39.8%	47.5%	45.8%
学生がどんな仕事に興味や関心があるのかを理解すること	42.6%	43.7%	42.2%	32.0%	42.6%	46.2%	34.7%	47.6%	45.8%	47.5%
学生が仕事と社会の関わりを理解すること	35.6%	30.3%	37.2%	32.0%	42.0%	40.4%	24.5%	35.0%	25.4%	35.6%
学生が自分のキャリアの責任は自分にあると思うこと	33.7%	27.5%	35.7%	32.0%	37.8%	23.1%	28.6%	34.0%	25.4%	44.1%
学生が希望する仕事に就ける可能性を理解すること	27.0%	24.6%	27.8%	29.3%	29.8%	25.0%	18.4%	22.3%	25.4%	33.9%
学生が仕事をする上で目標となる人がいること	12.6%	12.0%	12.9%	14.7%	11.7%	15.4%	14.3%	13.6%	10.2%	10.2%
特にない	3.6%	7.0%	2.5%	2.7%	2.1%	5.8%	8.2%	4.9%	3.4%	1.7%

卒業年次の夏以降に就職活動を継続している学生への支援で課題・難しさを感じる点（複数回答）

	全体 (n=594)	国公立 (n=147)	私立 (n=447)	北海道・東北(n=75)	関東 (n=187)	甲信越・北陸(n=53)	東海(n=52)	関西 (n=106)	中国・四国 (n=60)	九州・沖縄 (n=61)
学生の進捗状況が不明	56.6%	54.4%	57.3%	57.3%	57.2%	47.2%	59.6%	53.8%	63.3%	57.4%
学生との接点の取りづらさ	62.1%	58.5%	63.3%	58.7%	59.4%	56.6%	71.2%	62.3%	70.0%	63.9%
個別対応が増え、支援にかかる工数・負担の大きさ	30.6%	21.8%	33.6%	28.0%	40.6%	22.6%	30.8%	24.5%	28.3%	23.0%
紹介や案内できる求人・選択肢が限定的	31.5%	32.0%	31.3%	28.0%	32.1%	32.1%	30.8%	33.0%	25.0%	37.7%
学生の精神的な不安・焦りへの対応	41.1%	44.2%	40.0%	41.3%	46.0%	45.3%	34.6%	34.9%	45.0%	34.4%
学生の準備不足	49.8%	29.9%	56.4%	40.0%	51.3%	43.4%	61.5%	52.8%	46.7%	50.8%
支援できる人員・時間の不足	23.6%	17.0%	25.7%	20.0%	30.5%	9.4%	17.3%	23.6%	21.7%	26.2%
その他	1.9%	2.0%	1.8%	1.3%	1.6%	3.8%	−	2.8%	1.7%	1.6%
特に大きな課題は感じていない	3.9%	8.8%	2.2%	8.0%	2.7%	1.9%	1.9%	3.8%	3.3%	6.6%

● 27年卒のキャリアセンターの負荷は26年卒と比べてどうかを聞いたところ、「前年度並み」が最多の64.8%（前年比0.2pt増）、「増えた」は32.6%（前年比0.3pt減）、「減った」は2.7%（前年比0.2pt増）となり、昨年とほぼ同じ構成比となった。
負荷を解消すべき業務としては、前年に引き続き「企業等の来校への対応」が39.4%（前年比0.9pt増）となり最多となった。次いで「学内企業説明会の運営」が30.9%、「学生面談（エントリーシート添削）」が26.2%となった。企業対応と学内イベント運営に負荷が集中している状況が続いている。

キャリアセンターの負荷は2026年卒と比べて

	全体 (n=596)	国公立 (n=145)	私立 (n=451)	北海道・東北(n=75)	関東 (n=189)	甲信越・北陸(n=53)	東海(n=53)	関西 (n=105)	中国・四国 (n=60)	九州・沖縄 (n=61)	参考：前年調査
増えた	32.6%	22.8%	35.7%	29.3%	36.0%	47.2%	26.4%	37.1%	20.0%	23.0%	32.9%
前年度並み	64.8%	74.5%	61.6%	69.3%	60.3%	52.8%	73.6%	61.9%	75.0%	70.5%	64.6%
減った	2.7%	2.8%	2.7%	1.3%	3.7%	−	−	1.0%	5.0%	6.6%	2.5%

現状負荷がかかっており、負荷を解消すべき業務（複数回答）

	全体 (n=576)	国公立 (n=140)	私立 (n=436)	北海道・東北(n=74)	関東 (n=185)	甲信越・北陸(n=52)	東海(n=47)	関西 (n=101)	中国・四国 (n=58)	九州・沖縄 (n=59)	参考：前年調査
企業等の来校への対応	39.4%	41.4%	38.8%	48.6%	43.2%	38.5%	25.5%	26.7%	46.6%	42.4%	38.5%
学内企業説明会の運営	30.9%	32.9%	30.3%	32.4%	26.5%	28.8%	27.7%	32.7%	37.9%	37.3%	27.4%
学生面談（エントリーシート添削）	26.2%	22.1%	27.5%	24.3%	22.7%	38.5%	36.2%	25.7%	27.6%	20.3%	31.9%
学生面談（模擬面接）	25.2%	23.6%	25.7%	31.1%	20.5%	32.7%	29.8%	25.7%	20.7%	25.4%	27.6%
学内ガイダンスの運営	24.8%	23.6%	25.2%	31.1%	22.7%	26.9%	27.7%	21.8%	29.3%	20.3%	27.4%
インターンシップ等の運営	21.4%	16.4%	22.9%	17.6%	18.4%	13.5%	23.4%	22.8%	29.3%	30.5%	22.0%
学生面談（その他）	19.8%	17.1%	20.6%	21.6%	23.2%	26.9%	19.1%	10.9%	17.2%	18.6%	22.0%
教員との連携	19.4%	14.3%	21.1%	24.3%	18.9%	13.5%	23.4%	14.9%	27.6%	16.9%	16.3%
年間の方針・施策・スケジュール決め	14.4%	14.3%	14.4%	14.9%	13.0%	15.4%	17.0%	9.9%	22.4%	15.3%	13.9%
特に負荷を解消すべき業務はない	13.5%	16.4%	12.6%	16.2%	10.3%	19.2%	14.9%	20.8%	8.6%	6.8%	13.7%
職員のスキルアップ	12.2%	8.6%	13.3%	10.8%	13.0%	3.8%	21.3%	9.9%	20.7%	6.8%	12.0%
授業の運営	11.3%	5.7%	13.1%	14.9%	10.8%	7.7%	14.9%	7.9%	17.2%	8.5%	10.6%
新規企業開拓	10.9%	7.1%	12.2%	5.4%	12.4%	3.8%	21.3%	14.9%	8.6%	6.8%	8.7%
他部署との連携	9.7%	7.9%	10.3%	8.1%	8.6%	7.7%	10.6%	10.9%	13.8%	10.2%	7.8%
その他	9.5%	11.4%	8.9%	4.1%	12.4%	9.6%	12.8%	5.9%	6.9%	13.6%	11.7%
卒業生との連携	9.4%	12.1%	8.5%	12.2%	9.7%	5.8%	14.9%	5.0%	8.6%	11.9%	1.5%
予算管理	5.6%	6.4%	5.3%	2.7%	5.4%	7.7%	6.4%	2.0%	6.9%	11.9%	5.6%
内定者フォロー	4.2%	5.0%	3.9%	5.4%	3.2%	1.9%	2.1%	3.0%	12.1%	3.4%	5.0%

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

● これから最も力を入れていくキャリアセンターのミッションは前年に引き続き、「学生個々人の満足度向上」が52.6%（前年比4.8pt減）と最も高い数値となった。次いで「就職希望者に占める就職率の向上」が19.3%（前年比1.4pt増）、「大企業への就職人数の増加」は10.9%（前年比0.4pt増）となった。キャリア・就職支援の流れは全体支援から個別支援へという昨今の流れを表していると言える。
ミッションを目指すうえでの注力施策（複数回答可）の上位5つは「キャリアセンターの利用率向上」63.1%、「学内ガイダンスの動員増」47.1%、「学内企業説明会の動員増」44.2%、「低学年へのキャリア支援の強化」42.5%、「教職員・他部署との連携」36.2%となった。最も注力している施策としても「キャリアセンターの利用率向上」が27.6%（前年比0.9pt減）と突出して高く、まず学生との接点をつくることが最重要課題と認識されている。

キャリアセンターのミッションでこれから最も力を入れたいテーマ

	全体 (n=570)	国公立 (n=140)	私立 (n=430)	北海道・東北(n=70)	関東 (n=179)	甲信越・北陸(n=48)	東海(n=52)	関西 (n=103)	中国・四国 (n=60)	九州・沖縄 (n=58)	参考：前年調査
学生個々人の満足度向上	52.6%	48.6%	54.0%	47.1%	52.0%	45.8%	61.5%	55.3%	48.3%	58.6%	57.4%
就職希望者に占める就職率の向上	19.3%	20.0%	19.1%	20.0%	21.8%	22.9%	11.5%	20.4%	11.7%	20.7%	17.9%
大企業への就職人数の増加	10.9%	4.3%	13.0%	5.7%	17.3%	4.2%	9.6%	9.7%	13.3%	3.4%	10.5%
地域企業への就職人数の増加	8.9%	19.3%	5.6%	14.3%	2.2%	14.6%	9.6%	4.9%	20.0%	13.8%	5.9%
特定業種（公務員等）への就職人数の増加	3.0%	1.4%	3.5%	7.1%	2.2%	4.2%	3.8%	1.9%	1.7%	1.7%	3.0%
その他	5.3%	6.4%	4.9%	5.7%	4.5%	8.3%	3.8%	7.8%	5.0%	1.7%	5.4%

ミッションを目指すうえで注力している施策（予定含む）（複数回答）

	全体 (n=577)	国公立 (n=139)	私立 (n=438)	北海道・東北(n=70)	関東 (n=183)	甲信越・北陸(n=50)	東海(n=50)	関西 (n=103)	中国・四国 (n=61)	九州・沖縄 (n=60)	参考：前年調査
キャリアセンターの利用率向上	63.1%	55.4%	65.5%	40.0%	71.0%	54.0%	66.0%	70.9%	62.3%	58.3%	63.3%
学内ガイダンスの動員増	47.1%	45.3%	47.7%	45.7%	52.5%	50.0%	42.0%	47.6%	36.1%	45.0%	49.0%
学内企業説明会の動員増	44.2%	43.9%	44.3%	44.3%	48.6%	44.0%	32.0%	42.7%	42.6%	45.0%	43.8%
低学年へのキャリア支援の強化	42.5%	33.1%	45.4%	40.0%	44.8%	32.0%	38.0%	44.7%	39.3%	50.0%	45.8%
教職員・他部署との連携	36.2%	28.1%	38.8%	37.1%	33.3%	32.0%	30.0%	37.9%	42.6%	43.3%	32.6%
職員のスキルアップ	35.0%	21.6%	39.3%	28.6%	42.1%	26.0%	40.0%	29.1%	32.8%	36.7%	37.1%
個別面談の件数増	33.1%	26.6%	35.2%	21.4%	41.5%	20.0%	40.0%	36.9%	26.2%	26.7%	37.6%
学生のスキル・マインド向上	31.7%	23.0%	34.5%	34.3%	31.1%	38.0%	30.0%	32.0%	29.5%	28.3%	37.2%
新規企業開拓	21.7%	17.3%	23.1%	17.1%	23.5%	14.0%	30.0%	25.2%	24.6%	11.7%	20.7%
外部の企業・団体等との連携	20.3%	20.9%	20.1%	17.1%	17.5%	18.0%	24.0%	22.3%	24.6%	23.3%	23.5%
学内インターンシップ等の動員増	16.3%	15.1%	16.7%	14.3%	18.0%	16.0%	12.0%	9.7%	16.4%	28.3%	17.3%
特定の業界・職種・企業紹介の強化	16.3%	8.6%	18.7%	18.6%	16.9%	10.0%	18.0%	23.3%	9.8%	10.0%	14.2%
学生への連絡ツール増（チャット・SNS・はがきなど）	15.8%	10.8%	17.4%	8.6%	18.6%	12.0%	22.0%	19.4%	8.2%	15.0%	16.4%
特定の業界・職種・企業の選考対策の強化	10.9%	3.6%	13.2%	15.7%	11.5%	4.0%	10.0%	14.6%	6.6%	8.3%	10.4%
キャリアコンサルタントの人数増	7.8%	8.6%	7.5%	11.4%	7.1%	8.0%	12.0%	4.9%	3.3%	11.7%	9.5%
他大学と連携し学生交流の強化	6.1%	1.4%	7.5%	5.7%	7.1%	4.0%	8.0%	6.8%	3.3%	5.0%	6.7%
その他	4.7%	8.6%	3.4%	1.4%	3.8%	4.0%	2.0%	5.8%	13.1%	3.3%	3.2%

ミッションを目指すうえで最も注力している施策

	全体 (n=566)	国公立 (n=134)	私立 (n=432)	北海道・東北(n=71)	関東 (n=180)	甲信越・北陸(n=49)	東海(n=47)	関西 (n=101)	中国・四国 (n=60)	九州・沖縄 (n=58)	参考：前年調査
キャリアセンターの利用率向上	27.6%	26.1%	28.0%	11.3%	32.8%	24.5%	19.1%	35.6%	30.0%	24.1%	28.5%
学生のスキル・マインド向上	9.5%	9.0%	9.7%	14.1%	10.6%	8.2%	4.3%	10.9%	6.7%	6.9%	12.2%
低学年へのキャリア支援の強化	8.8%	4.5%	10.2%	9.9%	10.6%	6.1%	10.6%	6.9%	5.0%	10.3%	12.2%
学内ガイダンスの動員増	8.7%	13.4%	7.2%	11.3%	7.8%	20.4%	8.5%	8.9%	−	6.9%	8.2%
学内企業説明会の動員増	7.8%	9.7%	7.2%	11.3%	4.4%	8.2%	6.4%	5.0%	10.0%	17.2%	5.5%
個別面談の件数増	7.2%	5.2%	7.9%	5.6%	8.9%	4.1%	12.8%	5.9%	6.7%	5.2%	6.3%
教職員・他部署との連携	7.1%	8.2%	6.7%	8.5%	4.4%	10.2%	6.4%	5.0%	13.3%	8.6%	7.3%
新規企業開拓	4.6%	5.2%	4.4%	4.2%	4.4%	−	8.5%	3.0%	8.3%	5.2%	3.1%
特定の業界・職種・企業紹介の強化	4.4%	2.2%	5.1%	5.6%	6.7%	2.0%	8.5%	2.0%	3.3%	−	4.0%
外部の企業・団体等との連携	3.7%	6.0%	3.0%	4.2%	1.7%	4.1%	4.3%	5.9%	5.0%	3.4%	1.7%
職員のスキルアップ	3.2%	3.0%	3.2%	5.6%	1.7%	2.0%	6.4%	3.0%	5.0%	1.7%	4.2%
学生への連絡ツール増（チャット・SNS・はがきなど）	1.9%	1.5%	2.1%	1.4%	1.1%	4.1%	2.1%	3.0%	3.3%	−	1.1%
学内インターンシップ等の動員増	1.1%	0.7%	1.2%	−	0.6%	4.1%	−	1.0%	−	3.4%	1.1%
特定の業界・職種・企業の選考対策の強化	1.1%	0.7%	1.2%	2.8%	1.1%	−	−	−	−	3.4%	1.3%
キャリアコンサルタントの人数増	0.5%	0.7%	0.5%	1.4%	−	−	2.1%	−	−	1.7%	0.4%
他大学と連携し学生交流の強化	0.2%	−	0.2%	−	0.6%	−	−	−	−	−	0.2%
その他	2.7%	3.7%	2.3%	2.8%	2.8%	2.0%	−	4.0%	3.3%	1.7%	2.5%

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

最も注力している施策の具体的な内容

施策	エリア	学校区分	具体的な内容
キャリアセンターの利用率向上	関東	私立	学部3年次に全員を対象とした面談を実施することで、キャリアセンターへの来室のハードルを下げるようにしている。
キャリアセンターの利用率向上	中国・四国	私立	ガイダンスでのキャリアセンターの利用方法の周知やゼミ訪問など、「困ったらいつでもおいで」をコンセプトに実施している。
キャリアセンターの利用率向上	九州・沖縄	国公立	キャリアセンターの利用法が分かるリーフレットの作成、授業でのキャリアセンターツアーの実施。
キャリアセンターの利用率向上	関西	私立	小規模大学ならではの強みを活かし、キャリア支援担当者がゼミを直接訪問することで、学生一人ひとりの現状を把握し、教員とも連携を取っている。
低学年へのキャリア支援の強化	東海	私立	1年次はキャリアデザイン講座、2年次は自己分析と就職スタートアップ講座を実施している。
低学年へのキャリア支援の強化	関東	私立	低学年を対象とした夏の1Dayプログラム（事前・事後レクチャーと企業訪問）を企画中。また、秋から冬にかけて職業理解に関する講座を企画中。
教職員・他部署との連携	関東	私立	履歴書や小論文の添削、面接練習等について、教員と職員の役割分担やフローを明確化している。
教職員・他部署との連携	北海道・東北	私立	学内の委員会を活用し、教員も交え授業・研究室とも連携することで、就職活動に難航している学生をいち早く把握し、対策を打てるようにする。
学生のスキル・マインド向上	関東	私立	正課科目を通した社会人基礎力の向上と、学生の自信につながる個別面談の実施。
学生のスキル・マインド向上	関東	私立	年度初めに全学年を対象にガイダンスを開催している。また、個別相談に加えて、少人数のグループワークや先輩から就活体験を聞く機会等を設けている。
学内ガイダンスの動員増	関東	私立	就活年次4月に実施するキャリアガイダンスは、学科・専攻別で実施している。学科教員と連携し、学生が多く集まる機会を活用している。

● キャリア支援・就職支援に関して、特に知りたいとおもう情報について、1位は前年に引き続き「他大学の支援事例（68.7%）」となった。2位は「企業の採用動向（50.7%）」が前年比2.5pt増と大きく5位から2位へと順位を上げ、3位は「学内イベントの動員対策（49.5%）」となった。「低学年支援」も47.0%と高く、変化への対応が求められる中で、企業や他大学の具体的な事例・動向をキャッチしておきたいと推察される。

キャリア支援・就職支援に関して、特に知りたいとおもう情報（複数回答）

	全体 (n=594)	国公立 (n=148)	私立 (n=446)	北海道・東北(n=76)	関東 (n=187)	甲信越・北陸(n=53)	東海(n=53)	関西 (n=105)	中国・四国 (n=60)	九州・沖縄 (n=60)	参考：前年調査
他大学の支援事例	68.7%	62.8%	70.6%	59.2%	74.9%	75.5%	66.0%	70.5%	63.3%	60.0%	72.7%
企業の採用動向	50.7%	49.3%	51.1%	39.5%	54.0%	39.6%	52.8%	56.2%	51.7%	51.7%	48.2%
学内イベントの動員対策	49.5%	54.7%	47.8%	46.1%	49.7%	49.1%	41.5%	52.4%	50.0%	55.0%	48.7%
障がいがある学生支援	47.3%	40.5%	49.6%	40.8%	51.3%	43.4%	47.2%	45.7%	51.7%	45.0%	48.5%
低学年支援	47.0%	37.8%	50.0%	34.2%	51.3%	41.5%	54.7%	44.8%	51.7%	46.7%	49.5%
後半動く層への学生支援	41.2%	40.5%	41.5%	44.7%	43.9%	39.6%	28.3%	43.8%	36.7%	41.7%	43.5%
学生の就活動向	39.7%	38.5%	40.1%	35.5%	41.7%	39.6%	39.6%	37.1%	41.7%	41.7%	38.9%
人事の評価基準	36.0%	30.4%	37.9%	27.6%	40.6%	30.2%	35.8%	40.0%	30.0%	36.7%	37.8%
留学生支援	34.3%	29.7%	35.9%	22.4%	43.3%	28.3%	22.6%	33.3%	38.3%	35.0%	33.8%
インターンシップ支援	24.7%	24.3%	24.9%	22.4%	26.2%	13.2%	18.9%	26.7%	26.7%	33.3%	29.1%
アセスメントテスト結果や学生データの活用方法	13.1%	10.8%	13.9%	7.9%	10.2%	15.1%	11.3%	20.0%	18.3%	11.7%	13.5%
理系学生支援	11.8%	20.9%	8.7%	3.9%	12.8%	15.1%	7.5%	15.2%	10.0%	15.0%	12.0%
DX推進	11.6%	11.5%	11.7%	7.9%	11.2%	13.2%	18.9%	9.5%	8.3%	16.7%	11.1%
体育会系学生支援	10.4%	4.1%	12.6%	5.3%	11.8%	7.5%	15.1%	9.5%	11.7%	11.7%	8.4%
メディカル系学生支援	7.7%	4.7%	8.7%	7.9%	8.0%	3.8%	11.3%	6.7%	6.7%	10.0%	5.8%
最新ナビサイト情報	6.1%	2.7%	7.2%	1.3%	5.3%	3.8%	9.4%	6.7%	10.0%	8.3%	8.4%
保育学生支援	4.0%	1.4%	4.9%	5.3%	3.2%	1.9%	7.5%	1.9%	5.0%	6.7%	4.5%
高大接続改革	3.4%	1.4%	4.0%	5.3%	2.1%	1.9%	9.4%	1.9%	6.7%	−	3.3%
その他	2.2%	2.7%	2.0%	2.6%	3.7%	1.9%	3.8%	1.0%	−	−	1.3%
特になし	3.0%	6.8%	1.8%	3.9%	2.1%	3.8%	3.8%	1.0%	5.0%	5.0%	3.1%

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

● キャリア支援・就職支援の検討にあたり、就職情報サイト等の外部データをどのような目的で利用しているかを聞いたところ、「キャリア・就職支援施策の企画/見直しのための検討材料として」が66.0%と突出して高い数値となった。次いで「学内ガイダンスやイベント（学内合同企業説明会・企業セミナー等）の内容や実施時期を判断するため」が52.4%、「学生への情報提供・個別相談対応時の参考資料として」が46.8%となった。施策の立案や実施時期の判断といった意思決定の材料として活用されている一方、「外部データは把握していない」は3.3%にとどまり、外部データの参照そのものは広く定着していると言える。

就職情報サイト等の外部データの利用目的（複数回答）

	全体 (n=571)	国公立 (n=139)	私立 (n=432)	北海道・東北(n=71)	関東 (n=180)	甲信越・北陸(n=52)	東海(n=49)	関西 (n=102)	中国・四国 (n=60)	九州・沖縄 (n=57)
キャリア・就職支援施策の企画/見直しのための検討材料として	66.0%	55.4%	69.4%	57.7%	75.0%	55.8%	67.3%	66.7%	56.7%	64.9%
学内ガイダンスやイベント（学内合同企業説明会・企業セミナー等）の内容や実施時期を判断するため	52.4%	45.3%	54.6%	49.3%	61.7%	44.2%	36.7%	55.9%	38.3%	56.1%
学内関係者（学部・教職員・上層部等）への説明・共有として	31.0%	20.9%	34.3%	23.9%	34.4%	23.1%	40.8%	34.3%	25.0%	28.1%
学生への情報提供・個別相談対応時の参考資料として	46.8%	32.4%	51.4%	43.7%	53.9%	38.5%	46.9%	48.0%	38.3%	42.1%
前年や過去施策との比較・振り返りのため	25.6%	17.3%	28.2%	19.7%	32.2%	13.5%	28.6%	30.4%	23.3%	14.0%
他大学の動向と比較し、自大学の状況を把握するため	25.6%	14.4%	29.2%	23.9%	32.2%	17.3%	20.4%	25.5%	21.7%	22.8%
外部サービスや新たな支援施策導入の検討のため	11.9%	7.9%	13.2%	11.3%	15.0%	9.6%	12.2%	10.8%	6.7%	12.3%
その他の目的のため	1.1%	−	1.4%	−	1.7%	−	2.0%	1.0%	−	1.8%
就職情報サイト等の外部データは把握はしているが具体的な施策や業務には反映していない	10.2%	15.8%	8.3%	12.7%	6.7%	13.5%	4.1%	9.8%	18.3%	12.3%
就職情報サイト等の外部データは把握していない	3.3%	5.8%	2.5%	7.0%	2.2%	5.8%	4.1%	1.0%	1.7%	5.3%

● 学内の情報だけでは実態が把握しきれず課題に感じている内容を聞いたところ、「学生の活動時期・活動量の傾向（エントリー数・ログイン日など）」が44.2%、「学生の志望傾向（エントリー先企業群など）」が44.1%と僅差で並んだ。次いで「就職活動が停滞・後半化している学生の行動傾向や割合」が42.8%、「学外イベント（合同企業説明会・企業セミナー等）への参加状況や参加時期の傾向」が41.6%となった。上位には学外での学生の動きに関する項目が集中しており、学内で把握できる情報だけでは学生の実像をつかみきれていない状況がうかがえる。

学内の情報だけでは実態が把握しきれず課題に感じている内容（複数回答）

	全体 (n=572)	国公立 (n=138)	私立 (n=434)	北海道・東北(n=75)	関東 (n=180)	甲信越・北陸(n=51)	東海(n=47)	関西 (n=103)	中国・四国 (n=59)	九州・沖縄 (n=57)
学生の活動時期・活動量の傾向（エントリー数・ログイン日など）	44.2%	35.5%	47.0%	36.0%	50.6%	37.3%	46.8%	49.5%	30.5%	43.9%
学生の志望傾向（エントリー先企業群など）	44.1%	39.1%	45.6%	38.7%	47.2%	31.4%	53.2%	42.7%	44.1%	47.4%
学外イベント（合同企業説明会・企業セミナー等）への参加状況や参加時期の傾向	41.6%	34.1%	44.0%	28.0%	44.4%	35.3%	42.6%	42.7%	42.4%	52.6%
時系列の活動データ（前年比・月別推移など）	18.4%	15.9%	19.1%	12.0%	21.7%	9.8%	23.4%	20.4%	11.9%	22.8%
エリア別の傾向	14.7%	14.5%	14.7%	20.0%	7.2%	9.8%	23.4%	14.6%	13.6%	29.8%
学部・学科別の傾向	14.5%	13.8%	14.7%	10.7%	16.7%	5.9%	14.9%	16.5%	8.5%	22.8%
他大学群と比較した自校学生の活動傾向	36.7%	29.7%	38.9%	28.0%	40.0%	27.5%	40.4%	40.8%	35.6%	36.8%
就職活動が停滞・後半化している学生の行動傾向や割合	42.8%	43.5%	42.6%	42.7%	46.7%	43.1%	36.2%	42.7%	40.7%	38.6%
その他	2.3%	3.6%	1.8%	5.3%	1.7%	2.0%	2.1%	3.9%	−	−
特にない	8.9%	12.3%	7.8%	12.0%	7.2%	11.8%	8.5%	7.8%	8.5%	10.5%

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

(6) 学生向けの各種サービスについて

● 現在の学生の動向を踏まえて、増えていると思う就職活動の応募スタイルを聞いたところ、「エージェント型（仲介者が学生と企業の間に入り、マッチング・紹介・選考支援を行う）」が58.1%と最多となった。次いで「エントリー型（学生が自ら企業に応募する）」が39.8%、「オファー型（企業が一定条件に合う学生に対して、広く案内を送る）」が32.0%となった。学生が自ら応募する従来型を上回ってエージェント型が挙げられており、第三者が介在する形での応募の広がりを実感している大学が多いと推察される。

増えていると思う就職活動の応募スタイル（複数回答）

	全体 (n=578)	国公立 (n=140)	私立 (n=438)	北海道・東北(n=74)	関東 (n=181)	甲信越・北陸(n=50)	東海(n=53)	関西 (n=105)	中国・四国 (n=57)	九州・沖縄 (n=58)
エージェント型（仲介者が学生と企業の間に入り、マッチング・紹介・選考支援を行う）	58.1%	45.7%	62.1%	41.9%	64.1%	54.0%	50.9%	71.4%	56.1%	48.3%
エントリー型（学生が自ら企業に応募する）	39.8%	46.4%	37.7%	43.2%	33.1%	46.0%	41.5%	34.3%	40.4%	58.6%
オファー型（企業が一定条件に合う学生に対して、広く案内を送る）	32.0%	40.0%	29.5%	17.6%	42.0%	34.0%	20.8%	35.2%	33.3%	20.7%
ダイレクトリクルーティング型（企業が特定の学生を選び、個別にアプローチ）	14.4%	11.4%	15.3%	10.8%	20.4%	6.0%	9.4%	17.1%	12.3%	8.6%
学内推薦型（大学が企業に対して学生を推薦する）	4.7%	6.4%	4.1%	4.1%	7.7%	2.0%	−	4.8%	−	6.9%
その他	0.9%	1.4%	0.7%	1.4%	1.1%	2.0%	1.9%	−	−	−
変化を感じていない	12.8%	15.7%	11.9%	21.6%	11.6%	16.0%	13.2%	6.7%	12.3%	13.8%

◆新卒紹介

新卒紹介の案内開始希望月は、「卒業・修了年次【前年】3月以前計」が43.8%となり、約4割が卒業・修了年次の【前年】を希望している。単月では「卒業・修了年次【前年】3月」が13.4%と最多となった。

新卒紹介の案内開始希望月	全体 (n=410)	国公立 (n=97)	私立 (n=313)	北海道・東北(n=43)	関東 (n=135)	甲信越・北陸(n=35)	東海(n=36)	関西(n=78)	中国・四国 (n=42)	九州・沖縄 (n=41)	参考：前年調査
卒業・修了年次【前年】5月以前	8.5%	12.4%	7.3%	7.0%	6.7%	17.1%	11.1%	11.5%	4.8%	4.9%	7.6%
卒業・修了年次【前年】6月	3.4%	3.1%	3.5%	4.7%	5.2%	2.9%	−	3.8%	−	2.4%	5.3%
卒業・修了年次【前年】7月	2.9%	3.1%	2.9%	−	6.7%	−	−	2.6%	2.4%	−	2.0%
卒業・修了年次【前年】8月	1.0%	1.0%	1.0%	−	−	2.9%	2.8%	1.3%	2.4%	−	1.0%
卒業・修了年次【前年】9月	2.4%	1.0%	2.9%	2.3%	2.2%	−	8.3%	1.3%	2.4%	2.4%	3.1%
卒業・修了年次【前年】10月	4.6%	3.1%	5.1%	2.3%	7.4%	2.9%	2.8%	2.6%	2.4%	7.3%	2.8%
卒業・修了年次【前年】11月	1.2%	2.1%	1.0%	4.7%	−	5.7%	−	−	−	2.4%	1.5%
卒業・修了年次【前年】12月	2.2%	−	2.9%	−	0.7%	5.7%	5.6%	1.3%	−	7.3%	2.3%
卒業・修了年次【前年】1月	2.7%	1.0%	3.2%	2.3%	3.7%	5.7%	−	2.6%	2.4%	−	3.8%
卒業・修了年次【前年】2月	1.5%	1.0%	1.6%	2.3%	0.7%	−	2.8%	1.3%	2.4%	2.4%	2.5%
卒業・修了年次【前年】3月	13.4%	22.7%	10.5%	20.9%	9.6%	17.1%	8.3%	6.4%	23.8%	22.0%	15.0%
卒業・修了年次4月	9.0%	8.2%	9.3%	14.0%	8.9%	8.6%	5.6%	9.0%	11.9%	4.9%	5.3%
卒業・修了年次5月	2.7%	3.1%	2.6%	−	5.2%	−	−	3.8%	2.4%	−	2.8%
卒業・修了年次6月	8.8%	11.3%	8.0%	11.6%	9.6%	2.9%	16.7%	6.4%	7.1%	7.3%	10.2%
卒業・修了年次7月	5.9%	3.1%	6.7%	−	8.1%	5.7%	5.6%	7.7%	2.4%	4.9%	7.4%
卒業・修了年次8月	3.4%	2.1%	3.8%	−	3.7%	5.7%	8.3%	1.3%	7.1%	−	3.6%
卒業・修了年次9月	6.6%	4.1%	7.3%	−	5.9%	−	5.6%	11.5%	7.1%	12.2%	4.1%
卒業・修了年次10月	8.5%	7.2%	8.9%	14.0%	7.4%	11.4%	5.6%	9.0%	7.1%	7.3%	9.4%
卒業・修了年次11月	0.5%	−	0.6%	−	−	−	−	2.6%	−	−	0.8%
卒業・修了年次12月	2.2%	−	2.9%	−	2.2%	−	2.8%	2.6%	7.1%	−	1.0%
卒業・修了年次1月	2.7%	4.1%	2.2%	2.3%	2.2%	2.9%	−	2.6%	2.4%	7.3%	2.8%
卒業・修了年次2月	2.4%	3.1%	2.2%	9.3%	2.2%	−	2.8%	1.3%	−	2.4%	0.8%
卒業・修了年次3月	3.4%	3.1%	3.5%	2.3%	1.5%	2.9%	5.6%	7.7%	2.4%	2.4%	4.8%
卒業・修了年次【前年】3月以前計	43.8%	50.5%	41.9%	46.5%	42.9%	60.0%	41.7%	34.7%	43.0%	51.1%	46.9%

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

◆外国人留学生

外国人留学生向けに実施しているプログラムは「外国人留学生向けの日本でのキャリア・就職活動に関するガイダンス」が58.7%（前年比1.0pt増）で1位となった。次いで「エントリーシート添削」が44.7%（前年比4.7pt減）、「専任担当による個別相談」が39.8%（前年比0.8pt増）、「模擬面接」が38.7%（前年比5.7pt減）となった。

実施しているプログラム（複数回答）	全体 (n=450)	国公立 (n=102)	私立 (n=348)	北海道・東北(n=45)	関東 (n=155)	甲信越・北陸(n=36)	東海(n=38)	関西(n=87)	中国・四国 (n=44)	九州・沖縄 (n=45)	参考：前年調査
外国人留学生向けの日本でのキャリア・就職活動に関するガイダンス	58.7%	50.0%	61.2%	35.6%	72.9%	36.1%	57.9%	64.4%	40.9%	57.8%	57.7%
エントリーシート添削	44.7%	44.1%	44.8%	28.9%	47.1%	50.0%	42.1%	44.8%	45.5%	48.9%	49.4%
専任担当による個別相談	39.8%	38.2%	40.2%	24.4%	40.6%	41.7%	39.5%	44.8%	38.6%	42.2%	39.0%
模擬面接	38.7%	38.2%	38.8%	22.2%	41.3%	47.2%	36.8%	36.8%	38.6%	44.4%	44.4%
就職活動マナー講座	22.9%	21.6%	23.3%	17.8%	22.6%	33.3%	21.1%	21.8%	15.9%	31.1%	24.9%
外国人留学生向けの求人を見やすくまとめる	15.8%	15.7%	15.8%	11.1%	18.7%	8.3%	13.2%	16.1%	11.4%	22.2%	19.2%
日本語講座	14.7%	22.5%	12.4%	22.2%	11.0%	16.7%	15.8%	11.5%	18.2%	20.0%	12.1%
外国人留学生向けの学内合同企業説明会	13.8%	11.8%	14.4%	11.1%	11.6%	8.3%	7.9%	23.0%	9.1%	20.0%	13.5%
就職情報サイト登録会	11.1%	3.9%	13.2%	6.7%	8.4%	19.4%	15.8%	12.6%	11.4%	11.1%	11.4%
その他	23.1%	27.5%	21.8%	33.3%	18.1%	27.8%	31.6%	19.5%	31.8%	17.8%	22.8%

外国人留学生への就職支援に関する課題（自由記述）

エリア	学校区分	内容
甲信越・北陸	私立	在留資格に関する理解不足や日本語能力の個人差に加え、留学生を採用する企業に関する情報が限られていること
関東	私立	日本独特の就職活動を理解してもらうことが困難で、動き出しが遅くなりがち。企業が求める日本語力に満たない学生が多い
中国・四国	国公立	英語トラックの留学生への支援（英語でのガイダンス実施、面談、受け入れ企業の情報収集）
関東	私立	日本で働く場合の在留資格取得のスケジュールについて、さらに周知する必要がある
中国・四国	国公立	選考過程までは進むものの、マッチングがうまくいかず内定獲得につながりにくい
甲信越・北陸	私立	地域内で留学生を採用する企業が少ない
関西	私立	理系の場合、守秘義務があるため外国人留学生の研究職採用が難しい
関東	私立	対応できるカウンセラーのスキル向上および人員増

◆日本人留学生

日本人留学生向けに実施しているプログラムは「エントリーシート添削」が40.0%（前年比2.9pt減）で1位となった。次いで「模擬面接」が36.0%（前年比4.9pt減）、「専任担当による個別相談」が28.0%（前年比2.6pt増）となった。

実施しているプログラム（複数回答）	全体 (n=325)	国公立 (n=75)	私立 (n=250)	北海道・東北(n=34)	関東 (n=113)	甲信越・北陸(n=28)	東海(n=24)	関西(n=60)	中国・四国 (n=32)	九州・沖縄 (n=34)	参考：前年調査
エントリーシート添削	40.0%	48.0%	37.6%	41.2%	40.7%	39.3%	25.0%	43.3%	40.6%	41.2%	42.9%
模擬面接	36.0%	42.7%	34.0%	35.3%	36.3%	39.3%	20.8%	41.7%	31.3%	38.2%	40.9%
専任担当による個別相談	28.0%	28.0%	28.0%	26.5%	28.3%	25.0%	25.0%	28.3%	25.0%	35.3%	25.4%
日本人留学生向けのキャリア・就職活動に関するガイダンス	20.9%	18.7%	21.6%	11.8%	31.0%	10.7%	12.5%	20.0%	9.4%	23.5%	28.4%
就職活動マナー講座	15.4%	16.0%	15.2%	20.6%	14.2%	21.4%	12.5%	15.0%	15.6%	11.8%	18.5%
就職情報サイト登録会	4.9%	2.7%	5.6%	2.9%	3.5%	10.7%	−	6.7%	9.4%	2.9%	9.6%
日本人留学生向けの学内合同企業説明会	3.7%	4.0%	3.6%	8.8%	3.5%	3.6%	4.2%	5.0%	−	−	4.6%
日本人留学生向けの求人を見やすくまとめる	3.7%	4.0%	3.6%	5.9%	4.4%	7.1%	4.2%	−	−	5.9%	4.3%
その他	40.3%	38.7%	40.8%	50.0%	34.5%	42.9%	54.2%	40.0%	50.0%	29.4%	34.7%

日本人留学生への就職支援に関する課題（自由記述）

エリア	学校区分	内容
中国・四国	国公立	留学先との時差の関係により、日本時間で実施されるオンラインプログラムへの参加が困難なケースがある
関西	私立	英語でのエントリーシートや面接対策等の支援体制
関東	私立	帰国時期の遅い学生への就職支援

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

◆障がいがある学生

障がいがある学生への特別な就職支援の実施は「実施している」56.8%（前年比2.4pt減）となった。実施プログラムの項目としては「専任担当による個別相談」が53.4%（前年比0.5pt減）と最多となった。次いで「エントリーシート添削」が43.2%、「模擬面接」が39.6%、「キャリア・就職活動に関するガイダンス」が37.4%となった。

障がいがある学生への特別な就職支援の実施	全体 (n=556)	国公立 (n=136)	私立 (n=420)	北海道・東北(n=69)	関東 (n=179)	甲信越・北陸(n=46)	東海(n=52)	関西(n=95)	中国・四国 (n=59)	九州・沖縄 (n=56)	参考：前年調査
実施している	56.8%	43.4%	61.2%	34.8%	62.6%	56.5%	61.5%	57.9%	57.6%	58.9%	59.2%
実施予定がある	7.7%	9.6%	7.1%	11.6%	5.6%	8.7%	7.7%	6.3%	8.5%	10.7%	7.0%
実施しておらず実施予定もない	35.4%	47.1%	31.7%	53.6%	31.8%	34.8%	30.8%	35.8%	33.9%	30.4%	33.8%

実施しているプログラム（複数回答）	全体 (n=412)	国公立 (n=86)	私立 (n=326)	北海道・東北(n=39)	関東 (n=144)	甲信越・北陸(n=34)	東海(n=38)	関西(n=67)	中国・四国 (n=45)	九州・沖縄 (n=45)	参考：前年調査
専任担当による個別相談	53.4%	45.3%	55.5%	38.5%	50.7%	70.6%	52.6%	62.7%	44.4%	57.8%	53.9%
エントリーシート添削	43.2%	47.7%	42.0%	33.3%	40.3%	47.1%	39.5%	56.7%	33.3%	51.1%	45.3%
模擬面接	39.6%	46.5%	37.7%	30.8%	36.1%	47.1%	34.2%	52.2%	26.7%	51.1%	43.0%
キャリア・就職活動に関するガイダンス	37.4%	30.2%	39.3%	33.3%	49.3%	17.6%	23.7%	37.3%	26.7%	40.0%	39.3%
障がいがある学生向け求人の一覧化	17.7%	19.8%	17.2%	15.4%	20.1%	11.8%	31.6%	14.9%	2.2%	24.4%	20.6%
就職活動マナー講座	13.8%	15.1%	13.5%	15.4%	13.2%	17.6%	15.8%	13.4%	8.9%	15.6%	13.0%
学内合同企業説明会	10.9%	12.8%	10.4%	12.8%	7.6%	11.8%	7.9%	13.4%	6.7%	22.2%	10.4%
就職情報サイト登録会	5.1%	3.5%	5.5%	10.3%	6.3%	2.9%	2.6%	4.5%	4.4%	2.2%	5.7%
その他	25.2%	29.1%	24.2%	33.3%	21.5%	23.5%	23.7%	25.4%	35.6%	22.2%	26.3%

障がいがある学生への就職支援に関する課題（自由記述）

エリア	学校区分	内容
関西	私立	障害者手帳を持っておらず、自覚がないグレーゾーンの学生への就職支援方法が分からない
甲信越・北陸	私立	学生本人の希望と就労上必要な配慮事項の整理に時間を要するケースがあり、関係部署や企業との連携体制の強化が課題
関東	国公立	エントリーサイトやWeb適性試験がアクセシブルでない
中国・四国	国公立	障がいのある学生を採用している企業の情報収集
甲信越・北陸	国公立	卒業後も支援できるよう、外部の相談機関と連携し在学中から支援を行っていくこと
北海道・東北	私立	専門資格を持つ職員がいないため、知識不足で支援方法に限界を感じる
中国・四国	国公立	障がい者採用を掲げる企業であっても、募集時期や選考プロセスが十分に明示されていない場合があり、学生が応募を判断する際に必要な情報を得にくい
関西	私立	学生や保護者が障がい特性や配慮の必要性を十分に理解していない場合の対応
関西	私立	支援内容の幅が広く個人差も大きいため、就職活動から職場定着まで長期的かつ継続的な支援体制を構築していくこと

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

(7) 特別支援(高校・保護者)

● 高校と連携して行っていることを聞いたところ、「高校の授業やプログラム等での教職員による講演」が53.9%(前年比1.0pt減)と最多となった。次いで「大学での高校生向け公開講座」が30.7%(前年比2.8pt減)、「高校の進路指導部署との情報交換・レクチャー」29.6%(前年比1.7pt減)、「個別の相談対応」21.4%(前年比5.9pt減)となった。前年と比較して上位の顔ぶれに変更はない。
入学前教育で取り組まれている内容は「スクーリング(対面)」が15.5%(前年比1.5pt減)と最多だが、「わからない」が41.4%と高く、キャリア部署が入学前教育の詳細を把握しきれていない状況もうかがえる。

大学全体で高校と連携して行っていること(複数回答可)

	全体 (n=547)	国公立 (n=133)	私立 (n=414)	北海道・東北(n=66)	関東 (n=178)	甲信越・北陸(n=46)	東海(n=45)	関西(n=98)	中国・四国 (n=58)	九州・沖縄 (n=56)	参考:前年調査
高校の授業やプログラム等での教職員による講演	53.9%	43.6%	57.2%	62.1%	46.6%	60.9%	51.1%	59.2%	53.4%	55.4%	54.9%
大学での高校生向け公開講座	30.7%	33.1%	30.0%	36.4%	31.5%	39.1%	22.2%	22.4%	36.2%	30.4%	33.5%
高校の進路指導部署との情報交換・レクチャー	29.6%	27.8%	30.2%	30.3%	28.7%	30.4%	15.6%	33.7%	36.2%	28.6%	31.3%
個別の相談対応	21.4%	12.0%	24.4%	21.2%	24.7%	10.9%	11.1%	21.4%	25.9%	23.2%	27.3%
高校の授業やプログラム等での大学生による講演や座談会	13.7%	9.8%	15.0%	21.2%	10.1%	23.9%	11.1%	14.3%	12.1%	10.7%	14.0%
大学での高校生向け課題解決型・研究プログラム・ワークショップ	13.5%	12.0%	14.0%	12.1%	16.3%	6.5%	2.2%	16.3%	13.8%	16.1%	14.6%
高校生向けコンテスト	10.8%	4.5%	12.8%	4.5%	11.8%	6.5%	11.1%	11.2%	10.3%	17.9%	12.8%
高校生の子をもつ保護者向けの講演	7.1%	2.3%	8.7%	7.6%	5.6%	4.3%	−	10.2%	8.6%	12.5%	11.8%
大学での高校生向け課題解決型・研究プログラム・ワークショップ	5.9%	1.5%	7.2%	6.1%	6.7%	4.3%	−	7.1%	5.2%	7.1%	7.0%
その他	2.7%	2.3%	2.9%	1.5%	2.2%	6.5%	4.4%	2.0%	3.4%	1.8%	3.8%
今は実施していないが今後取り組む予定があると聞いている	0.9%	1.5%	0.7%	−	0.6%	2.2%	−	−	3.4%	1.8%	1.2%
今は実施しておらず今後も取り組む予定はないと聞いている	9.5%	9.0%	9.7%	12.1%	12.9%	8.7%	8.9%	8.2%	5.2%	3.6%	8.2%
わからない	23.0%	30.8%	20.5%	16.7%	25.3%	10.9%	28.9%	23.5%	22.4%	28.6%	22.2%

入学前教育で取り組まれている内容(予定含む)(複数回答可)

	全体 (n=541)	国公立 (n=129)	私立 (n=412)	北海道・東北(n=67)	関東 (n=175)	甲信越・北陸(n=47)	東海(n=43)	関西(n=95)	中国・四国 (n=58)	九州・沖縄 (n=56)	参考:前年調査
スクーリング(対面)	15.5%	3.1%	19.4%	14.9%	14.9%	14.9%	16.3%	21.1%	13.8%	10.7%	17.0%
外部の教材(e-learing)を送付し自習、レポート等の記入	15.2%	3.9%	18.7%	25.4%	14.9%	10.6%	18.6%	9.5%	12.1%	17.9%	13.6%
大学オリジナルの教材(e-learing)を送付し自習、レポート等の記入	13.1%	6.2%	15.3%	23.9%	13.1%	8.5%	9.3%	10.5%	13.8%	10.7%	14.0%
外部の教材(e-learing)を送付し自習のみ	10.2%	7.8%	10.9%	9.0%	8.0%	6.4%	11.6%	12.6%	13.8%	12.5%	11.5%
アセスメントテストの実施	6.8%	3.9%	7.8%	11.9%	5.7%	6.4%	2.3%	10.5%	8.6%	−	8.7%
スクーリング(WEB)	5.9%	3.9%	6.6%	7.5%	4.6%	4.3%	2.3%	10.5%	8.6%	1.8%	6.9%
合宿・交流会	5.2%	2.3%	6.1%	3.0%	4.0%	10.6%	−	4.2%	10.3%	7.1%	5.7%
大学オリジナルの教材(e-learing)を送付し自習のみ	5.0%	3.1%	5.6%	10.4%	2.9%	4.3%	4.7%	6.3%	3.4%	5.4%	4.3%
その他	5.5%	7.0%	5.1%	3.0%	6.9%	6.4%	−	4.2%	10.3%	5.4%	6.9%
実施していない	9.8%	18.6%	7.0%	11.9%	8.0%	12.8%	7.0%	14.7%	3.4%	10.7%	10.3%
わからない	41.4%	57.4%	36.4%	25.4%	46.9%	42.6%	46.5%	38.9%	37.9%	46.4%	38.5%

● 卒業生の生活やキャリアの充実度を測る上で取り組んでいることを聞いたところ、「卒業生アンケートの実施」が62.3%と最多となった。次いで「就職先企業に対するヒアリング」が32.9%、「同窓会組織との連携」が20.7%となった。一方、「アルムナイ(卒業生)ネットワークの整備」は7.9%、「卒業生向けのフォローアップ面談の実施」は5.5%にとどまり、「特にない」も21.6%となった。アンケートによる実態把握が中心であり、卒業後の継続的な関わりづくりは今後の課題と言える。

卒業生の生活やキャリアの充実度を測る上で取り組んでいること(複数回答)

	全体 (n=560)	国公立 (n=135)	私立 (n=425)	北海道・東北(n=70)	関東 (n=180)	甲信越・北陸(n=49)	東海(n=49)	関西 (n=100)	中国・四国 (n=57)	九州・沖縄 (n=55)
卒業生アンケートの実施	62.3%	47.4%	67.1%	60.0%	59.4%	59.2%	73.5%	63.0%	59.6%	69.1%
就職先企業に対するヒアリング	32.9%	20.0%	36.9%	21.4%	34.4%	28.6%	30.6%	41.0%	31.6%	34.5%
同窓会組織との連携	20.7%	22.2%	20.2%	21.4%	22.8%	20.4%	16.3%	20.0%	12.3%	27.3%
アルムナイ(卒業生)ネットワークの整備	7.9%	8.1%	7.8%	2.9%	10.6%	4.1%	4.1%	10.0%	7.0%	9.1%
卒業生向けのフォローアップ面談の実施	5.5%	5.9%	5.4%	5.7%	7.2%	2.0%	−	8.0%	5.3%	3.6%
リカレント教育に関する情報の提供	3.9%	2.2%	4.5%	7.1%	3.9%	2.0%	8.2%	2.0%	1.8%	3.6%
SNS等を活用したプラットフォームの整備	2.9%	2.2%	3.1%	4.3%	1.1%	−	2.0%	7.0%	1.8%	3.6%
その他	3.0%	5.2%	2.4%	4.3%	2.8%	4.1%	2.0%	3.0%	1.8%	3.6%
特にない	21.6%	33.3%	17.9%	21.4%	25.0%	24.5%	20.4%	17.0%	26.3%	12.7%

● 保護者に対して取り組まれている内容としては、「保護者向けガイダンスの実施(対面)」が42.8%(前年比4.0pt減)と最も高い実施率となった。「保護者向けガイダンスの実施(WEB・オンデマンド)」も19.3%(1.2pt減)となった。
保護者向けガイダンスで実施している内容は「学内の就職支援内容」58.3%、「学内の就職実績報告」56.5%、「就職活動スケジュール」54.8%が上位となった。昨今の少子化、大学進学率や親子の関わり方をふまえ、保護者を巻き込んだ支援が引き続き行われている。

保護者に対して取り組まれている内容(複数回答可)

	全体 (n=565)	国公立 (n=133)	私立 (n=432)	北海道・東北(n=66)	関東 (n=186)	甲信越・北陸(n=50)	東海(n=49)	関西 (n=100)	中国・四国 (n=58)	九州・沖縄 (n=56)	参考:前年調査
保護者向けガイダンスの実施(対面)	42.8%	27.1%	47.7%	33.3%	41.4%	38.0%	38.8%	53.0%	37.9%	53.6%	46.8%
大学ホームページ上で保護者向けの情報提供	35.0%	22.6%	38.9%	33.3%	37.1%	30.0%	18.4%	41.0%	37.9%	35.7%	37.7%
三者面談・個人面談	29.6%	10.5%	35.4%	28.8%	26.3%	18.0%	28.6%	36.0%	43.1%	26.8%	36.8%
保護者向けパンフレット・資料の配布	26.2%	15.0%	29.6%	22.7%	29.0%	26.0%	18.4%	34.0%	19.0%	21.4%	30.2%
保護者向けガイダンスの実施(WEB・オンデマンド)	19.3%	15.0%	20.6%	12.1%	23.1%	10.0%	18.4%	20.0%	15.5%	26.8%	20.5%
保護者向けメールマガジン・DMの送付	6.7%	2.3%	8.1%	3.0%	10.8%	2.0%	6.1%	8.0%	1.7%	5.4%	8.9%
その他	5.1%	3.8%	5.6%	3.0%	5.9%	6.0%	2.0%	5.0%	5.2%	7.1%	7.7%
実施していない	19.3%	39.1%	13.2%	25.8%	22.0%	20.0%	14.3%	15.0%	19.0%	14.3%	16.2%

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

保護者向けガイダンスで実施している内容（複数回答可）

	全体 (n=520)	国公立 (n=124)	私立 (n=396)	北海道・東北(n=62)	関東 (n=169)	甲信越・北陸(n=44)	東海(n=41)	関西(n=98)	中国・四国 (n=52)	九州・沖縄 (n=54)	参考：前年調査
学内の就職支援内容	58.3%	36.3%	65.2%	45.2%	57.4%	56.8%	58.5%	67.3%	59.6%	59.3%	64.7%
学内の就職実績報告	56.5%	37.9%	62.4%	41.9%	55.0%	59.1%	58.5%	65.3%	51.9%	63.0%	62.7%
就職活動スケジュール	54.8%	33.9%	61.4%	40.3%	56.2%	47.7%	61.0%	63.3%	53.8%	53.7%	62.5%
保護者の心構え・役割	43.3%	25.8%	48.7%	32.3%	45.6%	40.9%	41.5%	51.0%	34.6%	46.3%	48.1%
現在の就職環境・過去との違いについて	41.7%	22.6%	47.7%	25.8%	41.4%	27.3%	48.8%	54.1%	38.5%	48.1%	49.8%
インターンシップ等について	30.2%	14.5%	35.1%	14.5%	34.3%	20.5%	36.6%	33.7%	26.9%	35.2%	37.9%
保護者から子へのアドバイス方法	29.0%	16.1%	33.1%	24.2%	33.7%	25.0%	29.3%	31.6%	21.2%	25.9%	37.3%
低学年からのキャリア支援について	21.2%	11.3%	24.2%	14.5%	17.8%	9.1%	26.8%	31.6%	23.1%	24.1%	23.7%
就職活動にかかる金銭面について	16.3%	8.1%	18.9%	9.7%	18.9%	13.6%	17.1%	20.4%	7.7%	18.5%	22.0%
具体的な選考内容について	15.2%	7.3%	17.7%	8.1%	16.6%	9.1%	17.1%	21.4%	11.5%	14.8%	21.1%
卒業生や内定者の就活体験談	14.8%	12.9%	15.4%	6.5%	14.2%	13.6%	9.8%	19.4%	25.0%	13.0%	19.0%
企業・人事担当者の考え方・選考基準	10.8%	3.2%	13.1%	6.5%	13.6%	4.5%	12.2%	17.3%	3.8%	5.6%	13.6%
三省合意の内容について	8.1%	3.2%	9.6%	1.6%	10.1%	4.5%	12.2%	11.2%	3.8%	7.4%	8.2%
各業界の情報について	6.5%	1.6%	8.1%	4.8%	8.3%	−	9.8%	8.2%	5.8%	3.7%	7.1%
その他	2.3%	3.2%	2.0%	3.2%	3.6%	−	−	1.0%	1.9%	3.7%	1.9%
保護者向けガイダンスは実施していない	32.5%	53.2%	26.0%	45.2%	32.0%	34.1%	31.7%	27.6%	34.6%	25.9%	28.0%

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

(8)自由記述

◆学校主催で行うキャリア・就職ガイダンス増減の理由

増えた理由

エリア	学校区分	自由回答部分記載
中国・四国	国公立	前期に就職ガイダンスの回数を増やしたため。
関東	私立	3年生春に行う第1回就職ガイダンスへの集客に成功したため。
関東	私立	これまでオンデマンド配信を行っていたガイダンスを、登校日に合わせて対面開催にしたため。
関東	私立	イベント数の増加とオンデマンド形式の導入により、学生の参加機会が広がったため。
関東	私立	低学年支援の強化を開始した学年であったため。
関東	私立	ガイダンスの開催日時を、他の学生参加必須イベントの後に変更したため。
関東	私立	早い時期から学生の就職意識が高まっており、それに合わせてガイダンス時期の前倒しを行っているため。
関東	国公立	指導教員を通じての周知、学内掲示場所の増設、低学年向け講座の増加、フライヤーの変更や告知機会の追加などの対策によると考えられる。
中国・四国	国公立	年度初めおよびガイダンス実施の直前に各学科の教員へリマインドメールを送り、周知回数を増やした。認知度が上がるとともに、教員から学生へ声掛けいただいたことで増えたと考えられる。
中国・四国	私立	学園全体での実施から学科別の実施に変更したため。
関東	私立	就職ガイダンスを単位化した学科が増えたことにより、出席率が向上した。
甲信越・北陸	私立	低学年も参加できる業界・仕事研究講座を増やしたため、講座への参加者が増えた。

減った理由

エリア	学校区分	自由回答部分記載
中国・四国	国公立	売り手市場の環境に加えて他の情報源も多くあり、学校が行う就職ガイダンスに参加する必要性を感じなくなっているのではないか。
関西	私立	SNS媒体での情報収集や生成AIの利用といった流れが加速しているため。
関東	国公立	夏以降は、内容を精査した講座を実施しても参加までには至らなかった。ニーズと学生のスケジュールが合わなかったことが原因ではないかと考えている。
北海道・東北	国公立	学部・学科で行うガイダンスとの日程重複により減った。
九州・沖縄	私立	課外として実施するキャリア・就職ガイダンスは、必修科目のキャリア関連授業とは異なり「出なくてよいもの」という認識が学生に広がっている様子である。
関東	私立	ほとんどの講座を収録し学内ポータルサイトでアーカイブ動画を公開していることから、アーカイブ視聴数は増加傾向にある一方、当日参加者数は前年度より減少した。
北海道・東北	私立	キャリア関連科目の履修者が大幅に減少したため。
九州・沖縄	私立	3年生の夏休みに実施されるインターンシップへの参加に焦点を置く学生が増えたように思う。その結果、後期のガイダンス参加が大きく減少した。
北海道・東北	国公立	オンラインでの情報収集手段の充実や、学生の多様な活動による時間確保の難しさがあると考えられる。講義型のガイダンスに参加する意義が学生の中で薄れている可能性がある。
関東	国公立	就職活動の早期化が進んでいるため、後期に実施した講座の参加者数が減っているのではないかと考えている。
関東	私立	情報をインプットする講座はSNSや動画で視聴する学生が多い一方、実践的な少人数事前申し込み制の模擬面接講座は前年度並みの参加であった。
北海道・東北	国公立	学生の動きがより顕著に二極化している。早期化と選考スケジュールが複雑になり、企業の絞り込みが早くなっている上位層がいる一方で、売り手市場が続いていた影響で、先輩からなんとかなるという言葉で動き出しが遅い中間層以下の差が大きくなっているため。

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

◆キャリアセンターの負荷増減の理由

増えた理由

エリア	学校区分	自由回答部分記載
関東	私立	3年生の動きが活発なため、インターンシップ情報の提供や相談対応が大幅に増えている。
九州・沖縄	私立	企業の来校対応が大幅に増えたことに加え、学生からの添削依頼や相談件数も増加した。
関東	私立	博士課程支援など、これまでになかった対応業務が増えているため。
中国・四国	私立	人員は微増であるものの、学生を十分にサポートしにくいほど外部からの新規依頼業務が増えた。
中国・四国	国公立	求人に関する意見交換やインターンシップ開催の案内などで、面談を希望する企業が増えている。
関東	私立	学生の相談数は横ばいであるが、相談につなぎ込むための労力と施策は増えている。
関東	私立	低学年の活動開始と就活年次生の活動長期化が重なり、繁忙期が長くなってきている。
九州・沖縄	私立	学生一人あたりのエントリー数が増え、必要書類の添削や面接指導に時間を費やしたため。
甲信越・北陸	私立	支援対象の学生が増えた。また、キャリア教育を1年次の基礎演習に組み込んだため業務量が増えた。
甲信越・北陸	私立	個別面談・面接練習の件数が大きく増加したことに加え、年明け以降の内定辞退対応も増加したため。
関東	私立	生成AIの活用法に関する講座を増やしたことや、就職支援と学生相談（メンタル面）の両面での支援が必要な学生が増えているため。
東海	私立	支援対象学年が広がるとともに、支援対象が多様化（障がいのある学生、外国人留学生等）している。
中国・四国	私立	「学生が来やすいキャリアセンター」をコンセプトに運営方法を変えているため、相談件数が多くなった。
甲信越・北陸	国公立	日本での就職を希望する留学生の増加や、博士後期課程学生のキャリア形成支援の強化により、より細やかなサポートが必要となっているため。
甲信越・北陸	国公立	異動および退職によるマンパワーの減少に加え、企業からのメールが増加しているため。

減った理由

エリア	学校区分	自由回答部分記載
中国・四国	国公立	ガイダンスへの参加人数と同様に、個別の相談件数も減った。
関東	私立	個別相談時におけるエントリーシート添削の機会が大きく減った。
関東	私立	長期で育児休業を取得していた職員が復職し、適正な人員配置を取り戻すことができたため。
関東	私立	就職支援システムの導入が軌道に乗り、面談予約など事務的に運用することが可能になったため。
関東	私立	学生の就職に関する個別指導をゼミ担当教員に担ってもらう体制に変更したため。一方、教員一人ひとりのスキルアップが求められるため、その対策が必要となっている。

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

◆低学年学生へのキャリア支援に関する課題

エリア	学校区分	自由回答部分記載
九州・沖縄	私立	キャリア支援と就職支援をどのように連動させ、つなげていくか。こちらがキャリア支援として提供するサポートであっても、学生は就職支援を期待していることが多く、区分けが難しい。
甲信越・北陸	私立	低学年の時点では進路意識に個人差が大きく、キャリア支援への参加率の向上が課題である。
関西	私立	いつ頃にどのような内容のガイダンスが効果的であるか。
中国・四国	私立	低学年向け講座への参加者増の対策。特に2年生の意識向上策。
関東	私立	できる限り参加ハードルが低く、学部の垣根を越えた、実のあるプログラムの開発。
関東	国公立	入学したばかりで具体的な進路希望がない学生が多い。まずは自己分析から始めてほしいが、カリキュラム上、自己分析を実施する講座は任意参加のため、全員に意識づけすることが難しい。
関東	私立	就職活動を煽らずにキャリアを考えるプログラムを提供することが難しい。
関西	私立	1年次から3年次までの体系的な支援の確立。
東海	私立	一部対応はできているが、まだ点でしか支援できておらず、大学4年間を通したキャリア支援になっていない。
関東	私立	学業との両立の観点から、いたずらに就職活動への意識を醸成することは避けたいが、報道等の影響で年々低学年の不安が増している。
北海道・東北	私立	開始時期や回数をどの程度まで行うか。また、正課授業でのキャリア教育と重複しない内容を展開できるか。
北海道・東北	国公立	低学年のうちからキャリアセンターを利用する仕組みづくりを行っていきたい。本学の利用率は3年生から急激に高まるため、早い段階からフォローできる支援体制を構築したい。
東海	私立	低学年からのキャリア支援の必要性を学部に理解してもらうことが難しい。
中国・四国	国公立	低学年からインターンシップやキャリア教育への参加を希望する学生もいるが、受入枠が限られているため、希望しても参加できない場合がある。
東海	私立	学生生活を通じて自己理解・社会理解・学びの意味づけを支援し、自律的なキャリア形成を促すこと。

◆就職活動生への就職支援に関する課題

エリア	学校区分	自由回答部分記載
関西	私立	大学4年生になると学生の活動状況が見えなくなり、接点が持てなくなること。
東海	私立	メンタル面に不安のある学生の支援に課題がある。
九州・沖縄	国公立	エージェントを利用する学生に対するビジネスモデルの理解促進と、学内就職相談の利用促進。
関東	私立	就職活動の長期化に伴う就活疲れ。
関東	私立	学生の個別ニーズが多様化しており、画一的な支援では十分に対応しきれない。また、面接対策やエントリーシート対策において実践機会が不足している。
甲信越・北陸	国公立	進路未決定者へのフォローアップ（他者との比較による精神的負担などを含む）。
関東	国公立	早期に内定を獲得し活動を終える学生がいる一方で、スタートが出遅れた学生や選考で苦戦している学生への個別アプローチや、モチベーションの維持が課題である。
関東	私立	一般企業と専門職それぞれのキャリア支援を区別して実施する時間的・人的余裕がない。
甲信越・北陸	国公立	学生の動向や就職活動の進捗の把握が難しく、苦戦している学生の掘り起こしとキャリアセンターの利用促進が課題である。
関東	私立	就職活動開始時期の多様化に伴う、マス型支援の限界。
関東	私立	業界・企業研究が浅く、面接等で掘り下げた質問に対応できていない。AIの活用で表面的な準備はできていても、具体例を挙げて伝えることができなくなってきた。
北海道・東北	私立	秋卒業者への支援が不十分で、連絡が取れなくなることがある。
関西	国公立	就職率だけでなく、納得度の高い進路選択への支援。
関西	私立	クリエイティブ職を志望する学生は、就職活動で評価されるポートフォリオを作成するため、作品の完成度・技術力・表現力の向上が必要である。

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation

◆これからの就職支援についてのご意見

エリア	学校区分	自由回答部分記載
関東	私立	情報・AI・データサイエンス分野の企業に偏らず、学習した技術やスキルを活かせる業種・企業の探し方を知りたい。
関東	私立	内定後の推薦書提出（いわゆる後付け推薦）について、各大学の対応を知りたい。
中国・四国	私立	企業も大学・学生も横並びの状況で早期化の流れに抗しきれずに行動しているが、果たして早期化は双方にとって、また社会にとって本当に意味があるのか、よく吟味しなければならないと考える。
関東	私立	学生へ企業を紹介する際は、きちんと労働条件を明示したいと考えている。
関東	私立	実際には業種・業界・企業によって採用活動の時期や手法はさまざまであり、その事実を学生およびステークホルダーに正確に発信していく必要がある。
甲信越・北陸	私立	重複応募や内定辞退に関するトラブルの回避について知りたい。
甲信越・北陸	私立	学校推薦枠を設ける企業も増えていると考えられるが、併願可能な考え方でなければ使いにくい。さまざまな事例を知りたい。
北海道・東北	国公立	企業側の動きが見えづらくなっており、学生は最終的にどのように決断すべきか分からないまま活動を続けてしまう。
関東	私立	AIの社会実装の進展に伴い、就職支援の内容や方法を抜本的に見直す必要性を感じる。
関東	私立	学生の価値観や働き方への希望が多様化する中で、学生一人ひとりの専門性や適性に合わせた支援の重要性が高まっていると日々実感している。
関西	私立	インターネットではなくキャリアセンターを活用するメリットを学生に感じてもらうこと、その上で個別最適化された支援を提供することが、ますます重要となっている。
東海	私立	売り手市場がこのまま加速した場合、大学の評価という観点からは就職率は意味を持たないものになると考えている。大切になるのは定着率であると考えている。
関西	私立	企業は中途採用を増やしており、今後は新卒採用の枠が減るのではないかと感じている。従来の一括した新卒採用スケジュールは、通年採用に切り替わるのではないかと感じている。
九州・沖縄	私立	就職活動関連の説明会やイベントを開催・運営する事業者が乱立しており、学生に提供される情報の質や運営体制にばらつきがあることを懸念している。
関東	私立	生成AIを活用した就職支援のあり方について、知見を深めていきたい。

Copyright (C) 2026 Mynavi Corporation